

人権問題に関する県民意識調査
報 告 書

【概要版】

令和7年3月
岡 山 県

目 次

第1章 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査項目	1
3 調査方法	1
4 回収結果	1
5 回答者の属性	2
6 報告書をみる際の注意点	3
第2章 調査結果	4
1 人権問題について	4
問1 基本的人権の認知度	4
問2 人権侵害の推移	5
問3 人権侵害の経験	6
問3-1 人権侵害の内容	7
問4 他人の人権を守っているか	9
2 主な人権問題に関する意識について	10
問5 重要だと思う人権問題	10
問6 女性に関する人権問題だと思う事柄	12
問7 女性の人権が守られるために必要なこと	14
問8 子どもに関する人権問題だと思う事柄	15
問9 子どもの人権が守られるために必要なこと	17
問10 高齢者に関する人権問題だと思う事柄	19
問11 高齢者の人権が守られるために必要なこと	21
問12 障害のある人に関する人権問題だと思う事柄	22
問13 障害のある人の人権が守られるために必要なこと	24
問14 同和問題を知ったきっかけ	26
問14-1 同和問題に関する人権問題だと思う事柄	28
問14-2 同和問題を解決するために必要なこと	30
問15 在住外国人に関する人権問題だと思う事柄	31
問16 在住外国人の人権が守られるために必要なこと	33
問17 ヘイトスピーチを伴う活動の認知度	34
問17-1 ヘイトスピーチを伴う活動を知ったきっかけ	35
問17-2 ヘイトスピーチを伴う活動を見聞きして思ったこと	36
問18 ハンセン病に関してどのような人権問題が起きていたか知っている事柄	37
問19 HIV感染者等に関する人権問題だと思う事柄	38
問20 HIV感染者等の人権が守られるために必要なこと	39

問21 インターネットに関する人権問題だと思ふ事柄	40
問22 犯罪被害者等に関する人権問題だと思ふ事柄	42
問23 性的マイノリティの方に関する人権問題だと思ふ事柄	44
問24 ホームレスに関する人権問題だと思ふ事柄.....	46
問25 災害等の被災者に関する人権問題だと思ふ事柄	48
問26 セクシュアル・ハラスメントに関する人権問題だと思ふ事柄	49
問27 パワー・ハラスメントやマタニティ・ハラスメントなどに関する人権問題だと思ふ事柄...	50
3 人権問題の解決のための方策について	51
問28 人権問題を解決するために効果的だと思ふ啓発広報活動.....	51
問29 人権問題の解決に向けて力を入れていけばよいと思ふこと	53

第1章 調査概要

1 調査目的

岡山県では、前回令和元年に人権問題に関する県民意識調査を実施したが、以来5年経過し、その間の社会状況の急速な変化に伴って新たな人権課題が生まれ、また、県民の人権意識も変化していると考えられる。そのため、人権問題に関する県民の意識について状況を把握し、今後の人権施策を効果的に推進するための参考資料とする。

2 調査項目

- (1)人権問題について(5問)
- (2)主な人権問題に関する意識について(27問)
- (3)人権問題の解決のための方策について(2問)

3 調査方法

- (1)調査地域 岡山県全域
- (2)調査対象 県内全市町村から無作為に抽出した18歳以上の県民 3,000人
- (3)調査方法 郵送配付、郵送回収及びWEB回収(WEB回収は今回から導入)
- (4)実施時期 令和6年8月1日～令和6年8月31日

4 回収結果

有効回収数(率) 1,566人 (52.4%)

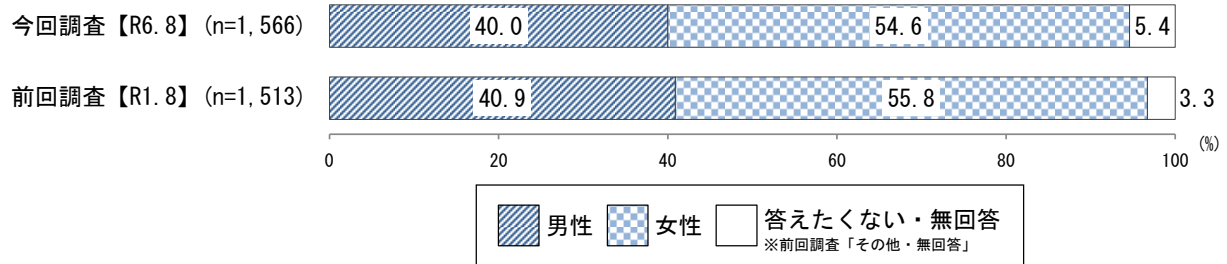
	調査票 発送数 (A)	転居等による返却 (B)	実調査 対象者数 (C)A-B	回収数 (D)	回収率 (D/C)	有効回収数 (E)	有効回収率 (E/C)
今回調査 【R6.8】	3,000人	11人	2,989人	1,570人	52.5%	1,566人※	52.4%
前回調査 【R1.8】	3,000人	9人	2,991人	1,518人	50.8%	1,513人	50.6%

※郵送回収(1,247人/79.6%)、WEB回収(319人/20.4%)

5 回答者の属性

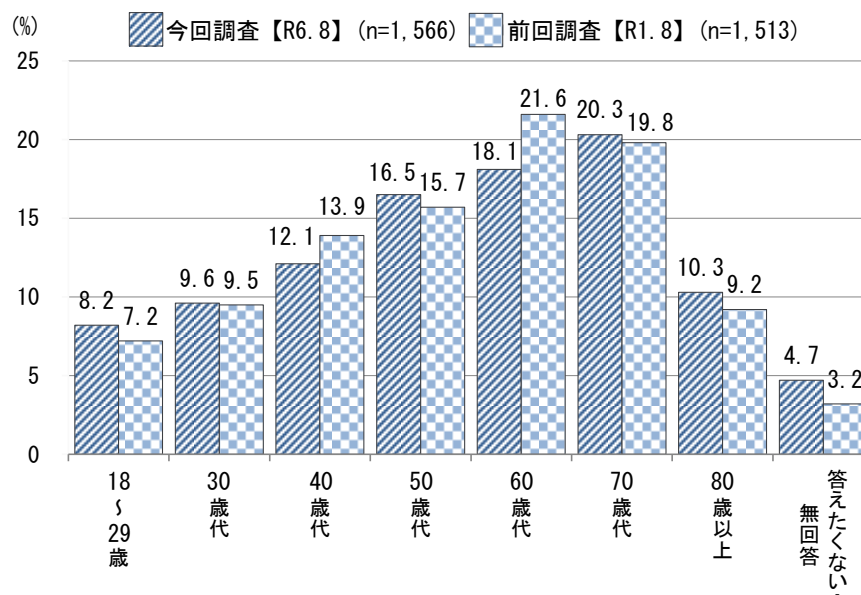
性別割合

	今回調査【R6.8】		前回調査【R1.8】	
	回答数(人)	構成比(%)	回答数(人)	構成比(%)
総数	1,566	100.0	1,513	100.0
男性	626	40.0	619	40.9
女性	855	54.6	844	55.8
答えたくない・無回答	85	5.4	50	3.3



年代別割合

	今回調査【R6.8】		前回調査【R1.8】	
	回答数(人)	構成比(%)	回答数(人)	構成比(%)
総数	1,566	100.0	1,513	100.0
18～29歳	129	8.2	109	7.2
30歳代	151	9.6	143	9.5
40歳代	189	12.1	210	13.9
50歳代	259	16.5	237	15.7
60歳代	284	18.1	327	21.6
70歳代	318	20.3	299	19.8
80歳以上	162	10.3	139	9.2
答えたくない・無回答	74	4.7	49	3.2



6 報告書をみる際の注意点

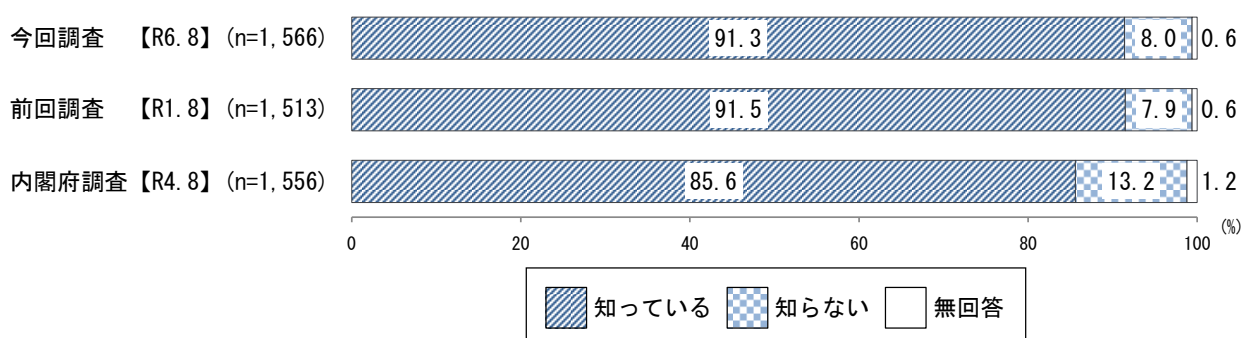
- (1) 本文及び図表中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が 100.0%とならない場合がある。
- (2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0%を超えることがある。
- (3) 報告書中の図表では、表記の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。
- (4) 報告書中の図表について、その設問に回答する資格を有する者の数を「(n=)」で示している。
- (5) 報告書における「内閣府調査」とは、内閣府が令和4年8月に実施した「人権擁護に関する世論調査」の調査結果であり、あくまで参考資料として掲載している。
- (6) 今回調査では、性別を「男性」、「女性」、「答えたくない」で調査したが、「答えたくない」の回答者が少数であったため無回答と併せ、「答えたくない・無回答」として集計している。
- (7) 今回調査と前回調査の比較において、選択肢の内容が大幅に変更された項目では数値に大きな差異が出ることもあるため、分析コメントは記載しない。

第2章 調査結果

1 人権問題について

◎基本的人権の認知度

問1 あなたは、法の下での平等、自由権、社会権(生存権、教育を受ける権利、労働の権利等)等の基本的人権は侵すことのできない永久の権利として、憲法で保障されていることを知っていますか。(✓は1つ)



「知っている」が9割台前半で、前回調査とほぼ同水準

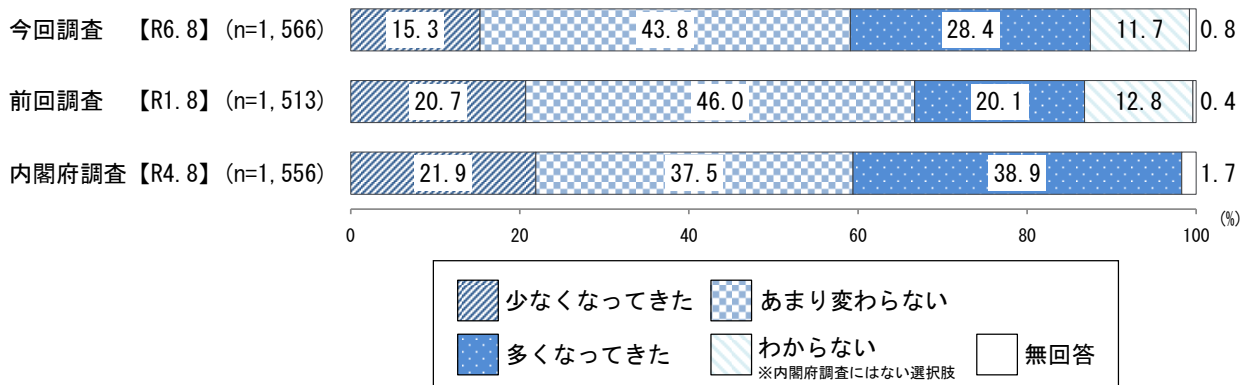
基本的人権の認知度について、「知っている」は91.3%、「知らない」は8.0%となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

内閣府調査と比較すると、「知っている」は5.7ポイント高くなっている。

◎人権侵害の推移

問2 新聞やテレビなどで「人権問題」とか「人権が侵害された」というニュースが報道されることがありますが、あなたは、この5年の間に、日本で人権が侵害されるようなことは、次第に少なくなってきたと思いますか、あまり変わらないと思いますか、それとも次第に多くなってきたと思いますか。(✓は1つ)



「多くなってきた」が2割台後半、前回調査から増加

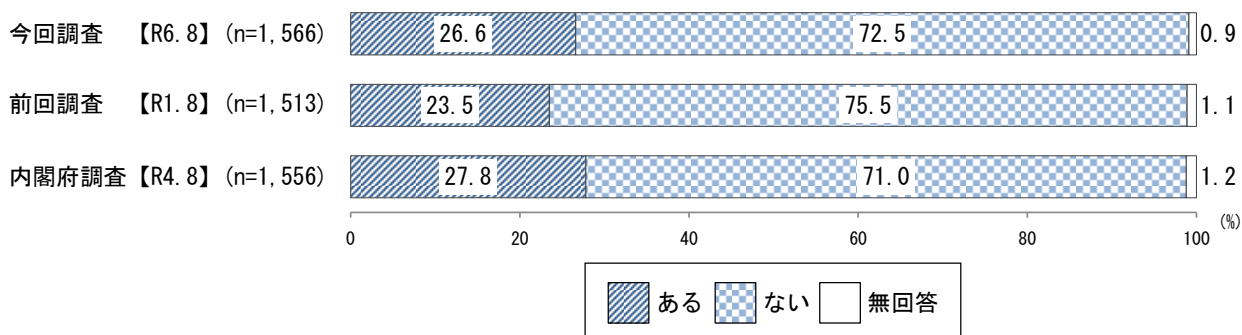
人権侵害の推移について、「少なくなってきた」は15.3%、「あまり変わらない」は43.8%、「多くなってきた」は28.4%、「わからない」は11.7%となっている。

前回調査と比較すると、「多くなってきた」は8.3ポイント高くなっている。

内閣府調査と比較すると、「少なくなってきた」は6.6ポイント、「多くなってきた」は10.5ポイント低くなっており、「あまり変わらない」は6.3ポイント高くなっている。

◎人権侵害の経験

問3 あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(✓は1つ)



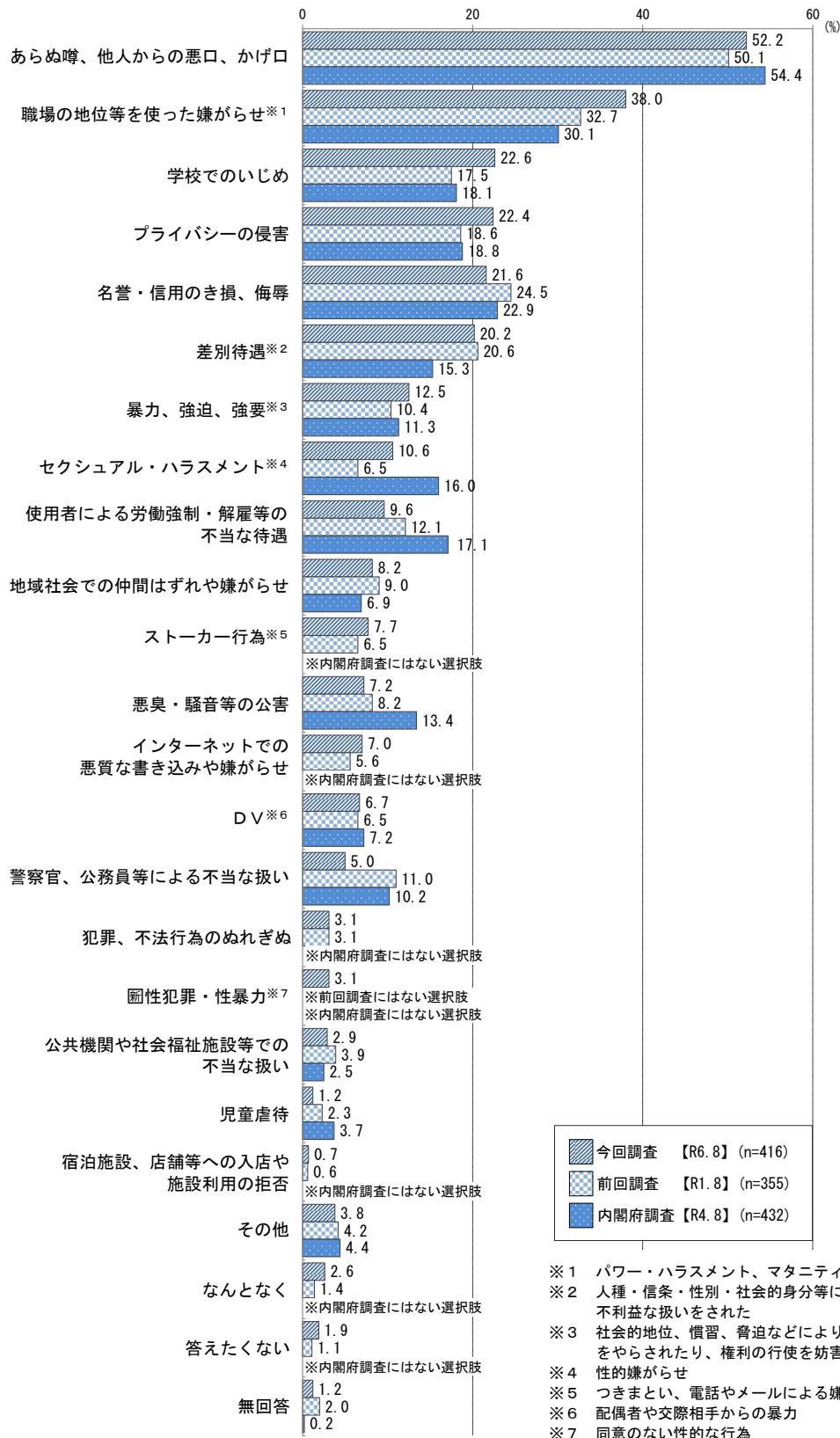
「ある」が2割台後半

人権侵害の経験について、「ある」は26.6%、「ない」は72.5%となっている。
前回調査・内閣府調査と比較すると、ともに大きな差はみられない。

◎人権侵害の内容

(問3で「ある」と答えた方にお聞きます。)

問3-1 それは、どのような場合ですか。差し支えなければこの中からあげてください。
(✓はいくつでも)



- ※1 パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントなど
 ※2 人種・信条・性別・社会的身分等により、不平等または不利益な扱いをされた
 ※3 社会的地位、慣習、脅迫などにより、本来義務のないことをやらされたり、権利の行使を妨害された
 ※4 性的嫌がらせ
 ※5 つきまとい、電話やメールによる嫌がらせなど
 ※6 配偶者や交際相手からの暴力
 ※7 同意のない性的な行為

「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が5割台前半

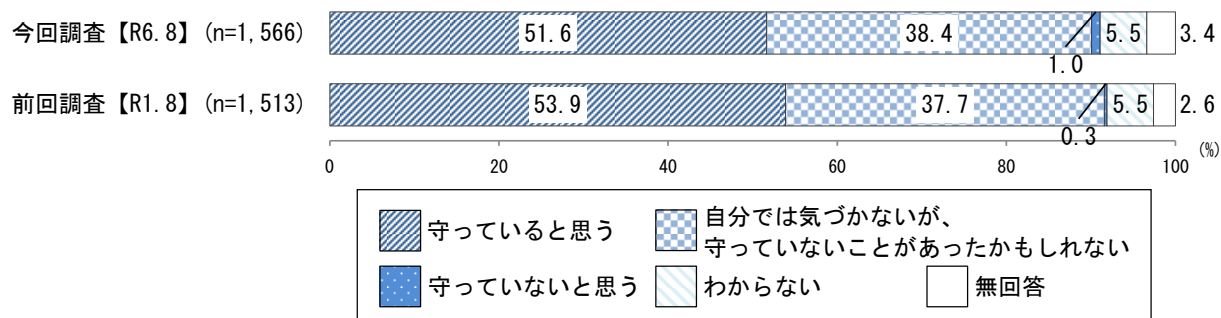
人権侵害の内容について、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が52.2%と最も高く、次いで「職場の地位等を使った嫌がらせ」(38.0%)、「学校でのいじめ」(22.6%)、「プライバシーの侵害」(22.4%)となっている。

前回調査と比較すると、「職場の地位等を使った嫌がらせ」は5.3ポイント、「学校でのいじめ」は5.1ポイント高くなっており、「警察官、公務員等による不当な扱い」は6.0ポイント低くなっている。

内閣府調査と比較すると、「職場の地位等を使った嫌がらせ」は7.9ポイント高くなっており、「セクシュアル・ハラスメント」は5.4ポイント、「使用者による労働強制・解雇等の不当な待遇」は7.5ポイント、「悪臭・騒音等の公害」は6.2ポイント、「警察官、公務員等による不当な扱い」は5.2ポイント低くなっている。

◎他人の人権を守っているか

問4 あなたは、他人の人権を守っていますか。(✓は1つ)



「守っていると思う」が5割台前半

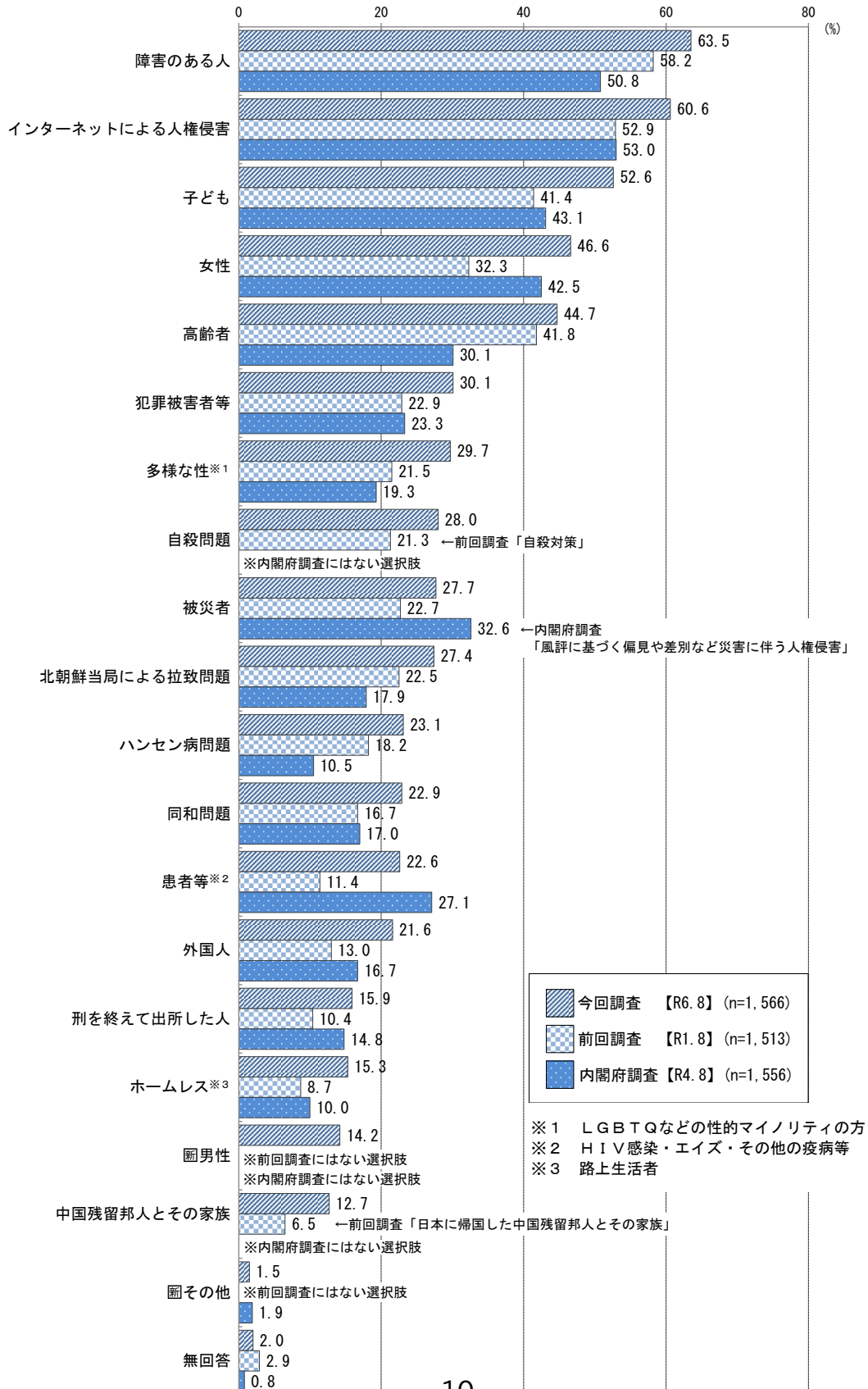
他人の人権を守っているかについて、「守っていると思う」は51.6%、「自分では気づかないが、守っていないことがあったかもしれない」は38.4%、「守っていないと思う」は1.0%、「わからない」は5.5%となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

2 主な人権問題に関する意識について

◎重要だと思う人権問題

問5 あなたは現在、どの人権問題または誰に対する人権問題が重要だと思いますか。
(✓はいくつでも)



「障害のある人」、「インターネットによる人権侵害」が6割台前半

質問を前回調査の『第4次岡山県人権政策推進指針』に掲げている次の人権課題について、あなたは現在、どのような課題が重要だと思いますか。（✓はいくつでも）」から変更している。

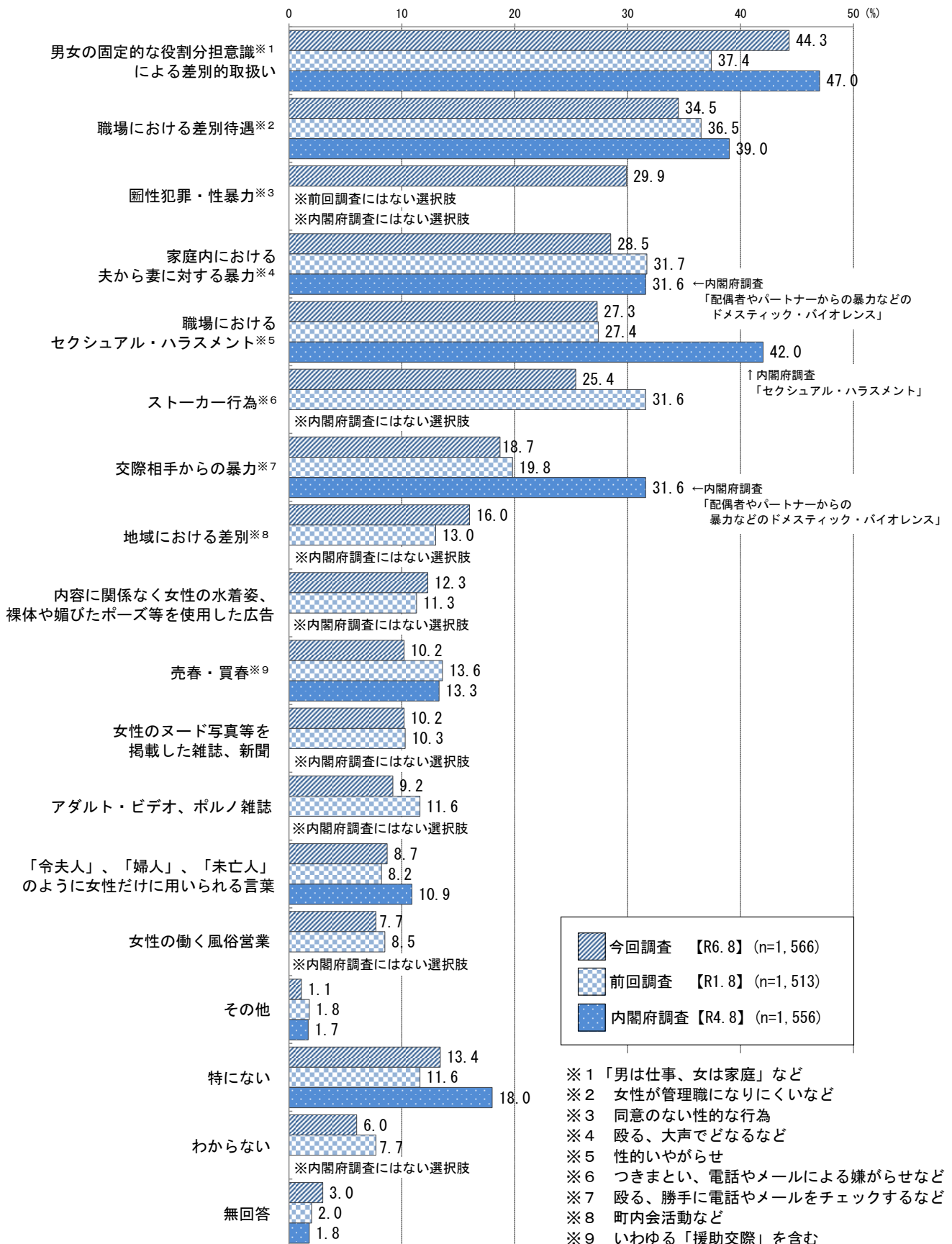
重要だと思う人権問題について、「障害のある人」が63.5%と最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害」（60.6%）、「子ども」（52.6%）となっている。

前回調査と比較すると、すべての項目で高くなっており、特に「子ども」、「患者等」はともに11.2ポイント、「女性」は14.3ポイント高くなっている。

内閣府調査と比較すると、「障害のある人」は12.7ポイント、「高齢者」は14.6ポイント、「ハンセン病問題」は12.6ポイント高くなっている。

◎女性に関する人権問題だと思う事柄

問6 あなたが、女性に関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。(✓はいくつでも)



「男女の固定的な役割分担意識による差別的取扱い」が4割台半ば

質問を前回調査の「あなたは、女性に関する事柄で、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。(✓はいくつでも)」から変更している。

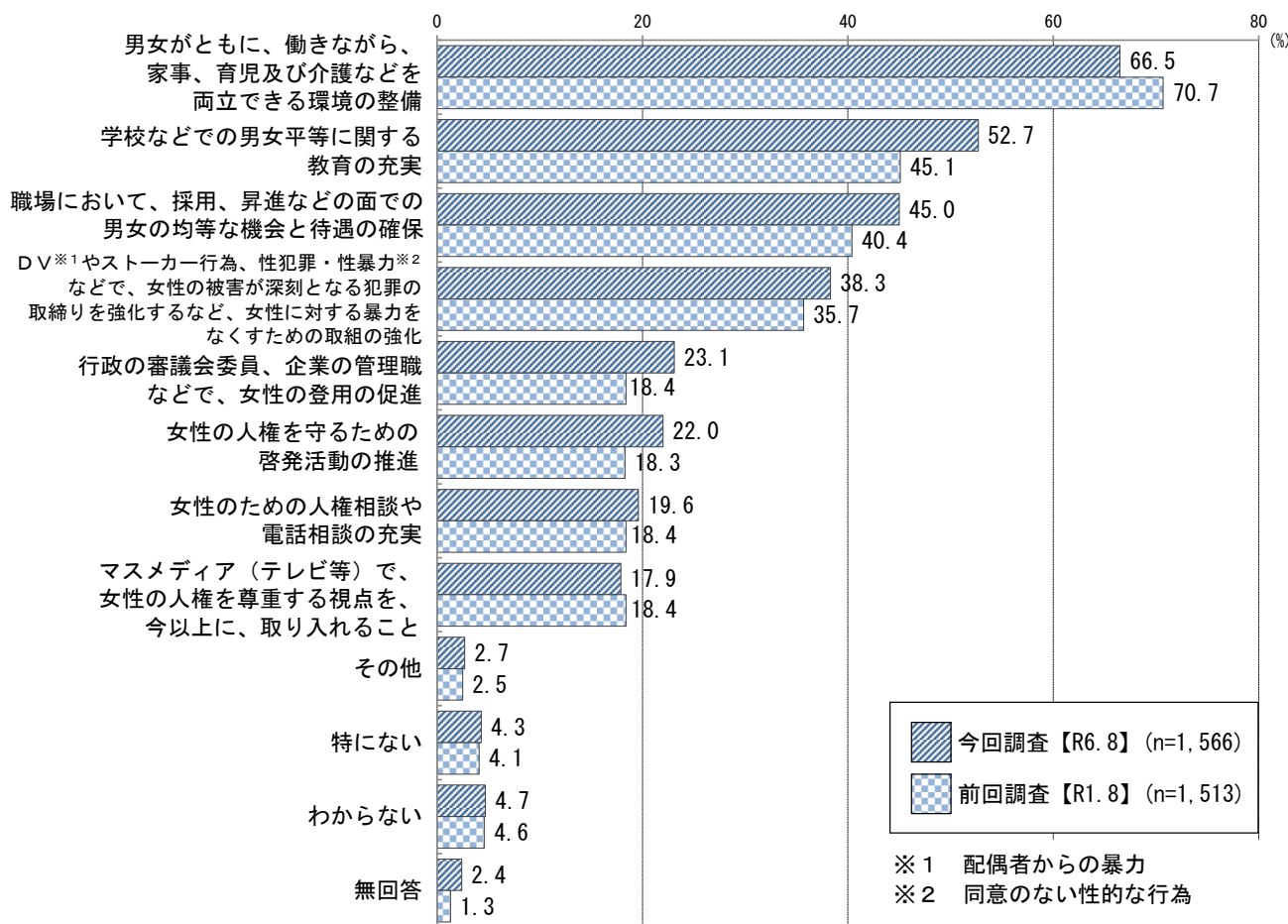
女性に関する人権問題だと思ふ事柄について、「男女の固定的な役割分担意識による差別的取扱い」が44.3%と最も高く、次いで「職場における差別待遇」(34.5%)、「性犯罪・性暴力」(29.9%)、「家庭内における夫から妻に対する暴力」(28.5%)となっている。

前回調査と比較すると、「男女の固定的な役割分担意識による差別的取扱い」は6.9ポイント高くなっており、「ストーカー行為」は6.2ポイント低くなっている。

内閣府調査と比較すると、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」は14.7ポイント、「交際相手からの暴力」は12.9ポイント低くなっている。

◎女性の人権が守られるために必要なこと

問7 女性の人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(✓はいくつでも)



「男女がともに、働きながら、家事、育児及び介護などを両立できる環境の整備」
が6割台後半

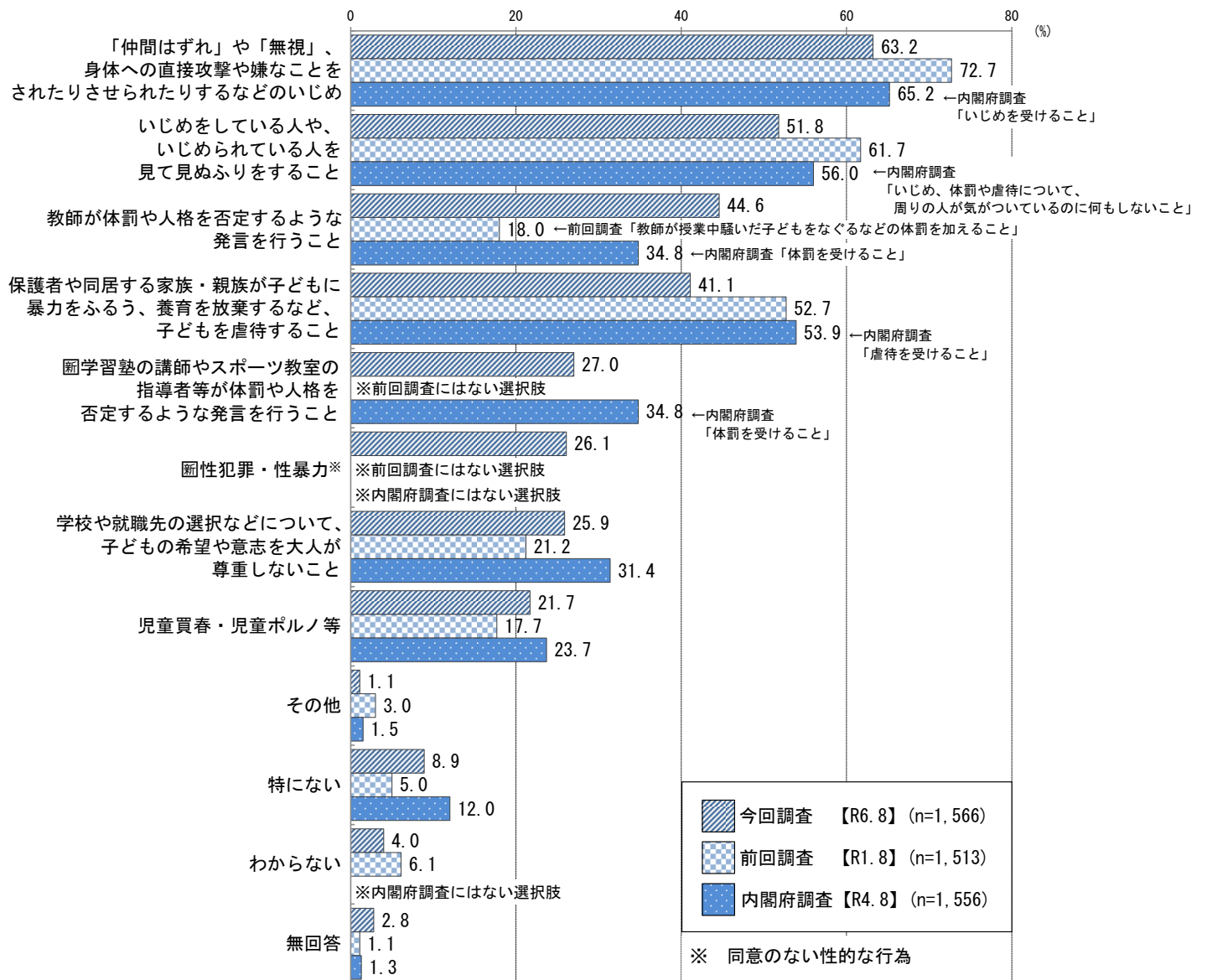
質問の回答数について、前回調査では「✓は5つまで」だったが、今回調査では「✓はいくつでも」に変更している。

女性の人権が守られるために必要なことについて、「男女がともに、働きながら、家事、育児及び介護などを両立できる環境の整備」が66.5%と最も高く、次いで「学校などでの男女平等に関する教育の充実」(52.7%)、「職場において、採用、昇進などの面での男女の均等な機会と待遇の確保」(45.0%)となっている。

前回調査と比較すると、「学校などでの男女平等に関する教育の充実」は7.6ポイント高くなっている。

◎子どもに関する人権問題だと思う事柄

問8 あなたが、子どもに関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。(✓はいくつでも)



『「仲間はずれ」や「無視」、身体への直接攻撃や嫌なことをされたりさせられたりするなどのいじめ』が6割台前半

質問を前回調査の「あなたは、子どもに関する事柄で、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。(✓はいくつでも)」から変更している。

子どもに関する人権問題だと思う事柄について、『「仲間はずれ」や「無視」、身体への直接攻撃や嫌なことをされたりさせられたりするなどのいじめ』が63.2%と最も高く、次い

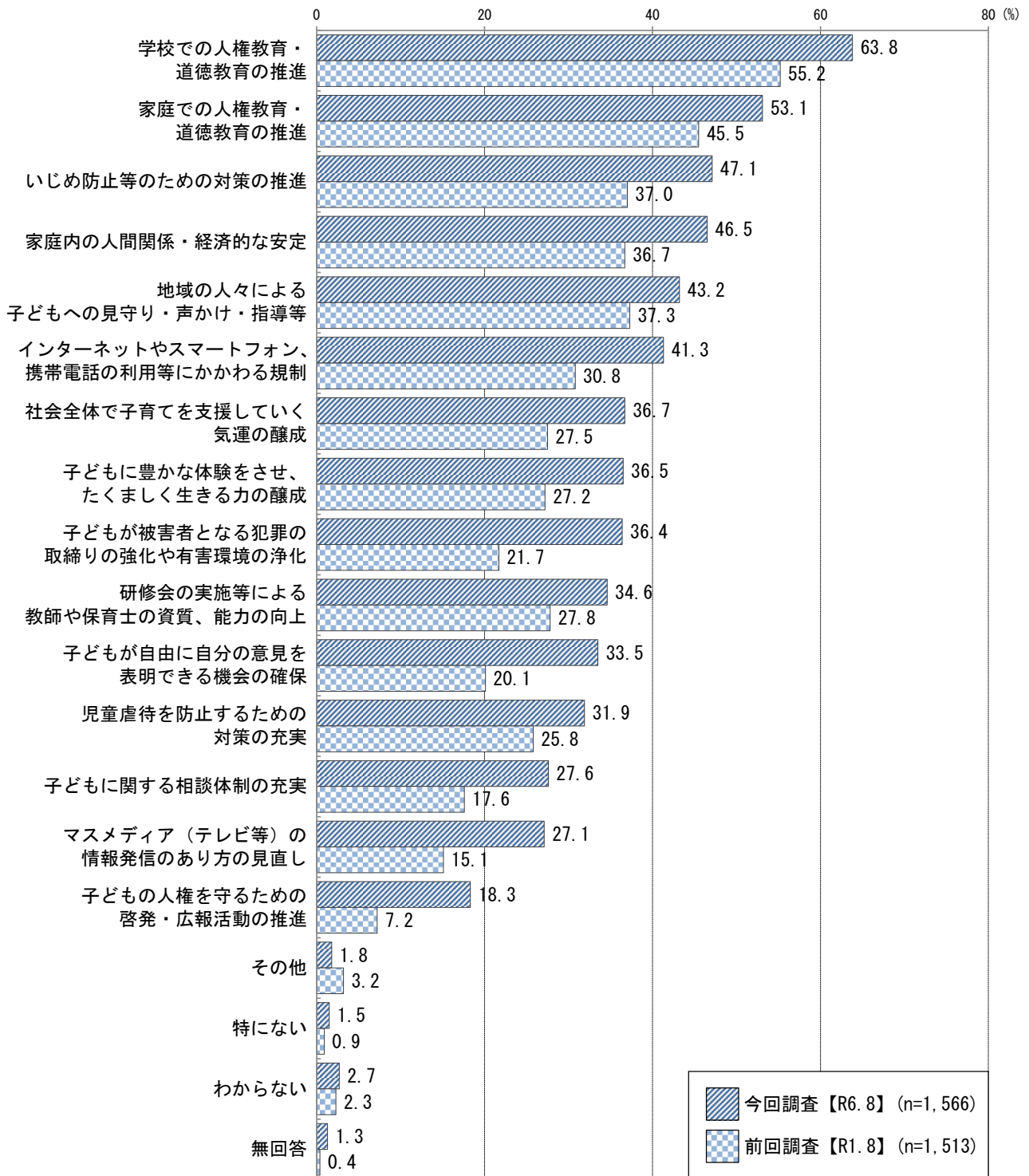
で「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」(51.8%)、「教師が体罰や人格を否定するような発言を行う事」(44.6%)となっている。

前回調査と比較すると、『仲間はずれ』や『無視』、身体への直接攻撃や嫌なことをされたりさせられたりするなどのいじめ」は9.5ポイント、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」は9.9ポイント、「保護者や同居する家族・親族が子どもに暴力をふるう、養育を放棄するなど、子どもを虐待すること」は11.6ポイント低くなっている。

内閣府調査と比較すると、「学校や就職先の選択などについて、子どもの希望や意志を大人が尊重しないこと」は5.5ポイント低くなっている。

◎子どもの人権が守られるために必要なこと

問9 子どもの人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(✓はいくつでも)



「学校での人権教育・道徳教育の推進」が6割台前半

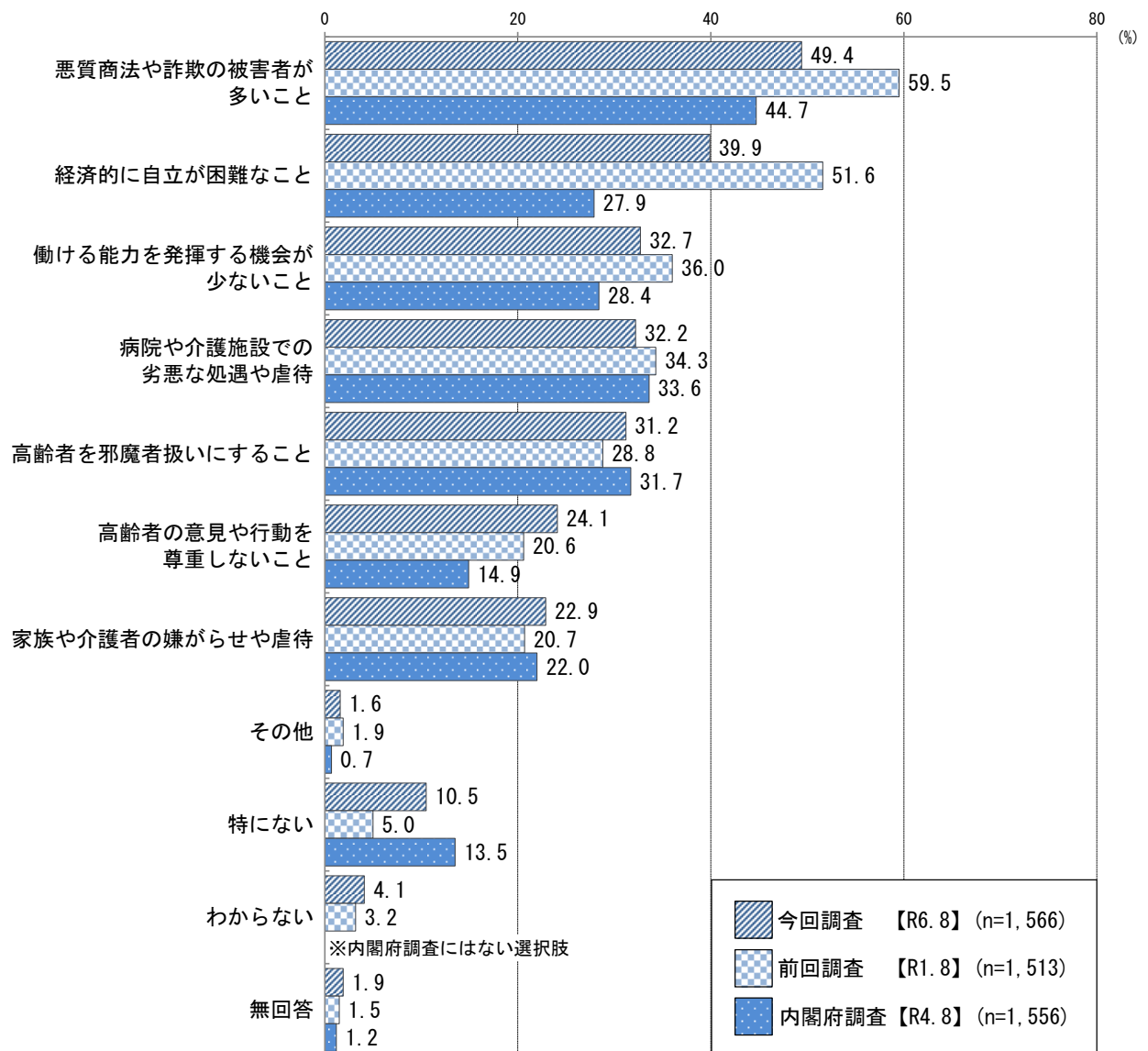
質問の回答数について、前回調査では「✓は5つまで」だったが、今回調査では「✓はいくつでも」に変更している。

子どもの人権が守られるために必要なことについて、「学校での人権教育・道徳教育の推進」が63.8%と最も高く、次いで「家庭での人権教育・道徳教育の推進」(53.1%)、「いじめ防止等のための対策の推進」(47.1%)、「家庭内の人間関係・経済的な安定」(46.5%)となっている。

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で前回調査より高くなっており、特に「子どもが被害者となる犯罪の取締りの強化や有害環境の浄化」は14.7ポイント、「子どもが自由に自分の意見を表明できる機会の確保」は13.4ポイント高くなっている。

◎高齢者に関する人権問題だと思う事柄

問10 あなたが、高齢者に関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。(✓はいくつでも)



「悪質商法や詐欺の被害者が多いこと」が約5割

質問を前回調査の「あなたは、高齢者に関する事柄で、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。(✓はいくつでも)」から変更している。

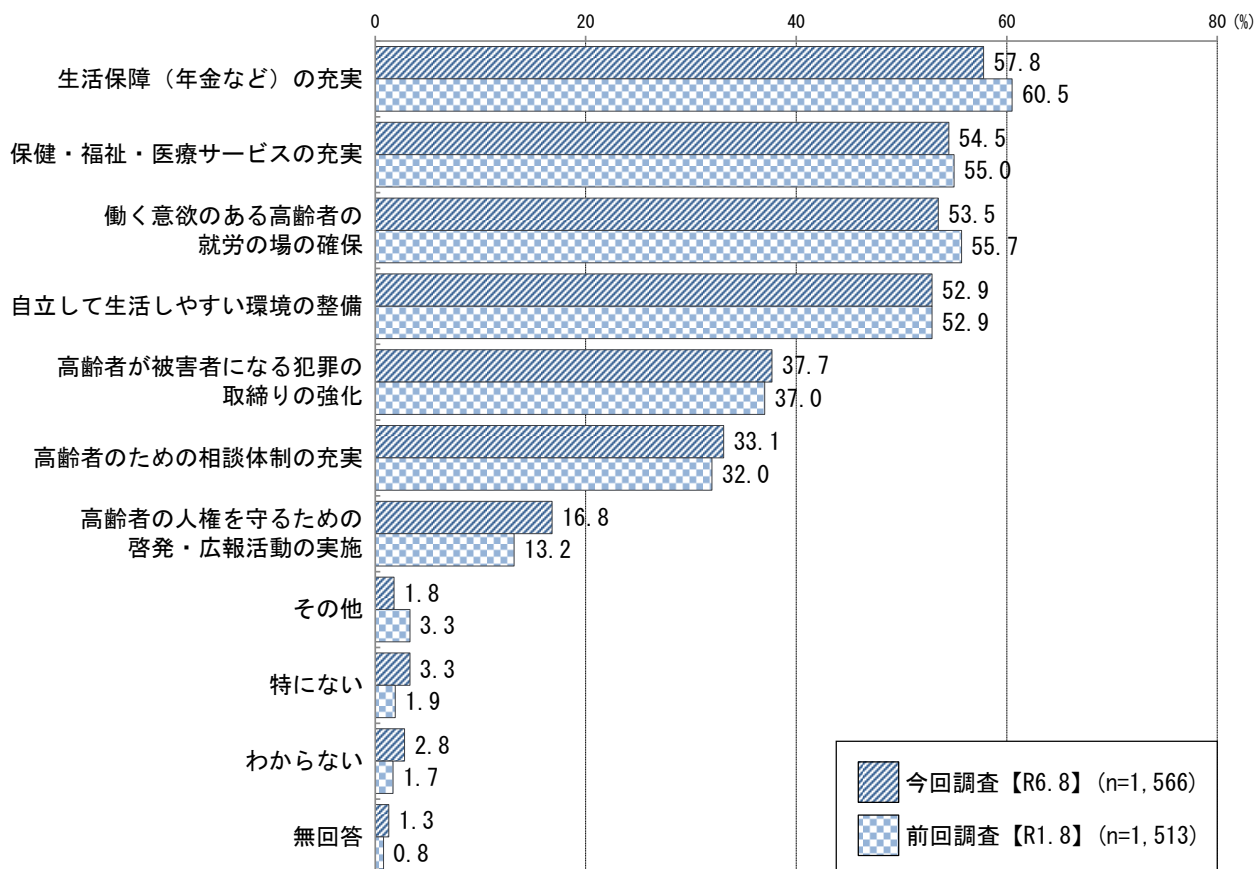
高齢者に関する人権問題だと思う事柄について、「悪質商法や詐欺の被害者が多いこと」が49.4%と最も高く、次いで「経済的に自立が困難なこと」(39.9%)、「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」(32.7%)となっている。

前回調査と比較すると、「悪質商法や詐欺の被害者が多いこと」は10.1ポイント、「経済的に自立が困難なこと」は11.7ポイント低くなっている。

内閣府調査と比較すると、「経済的に自立が困難なこと」は12.0ポイント、「高齢者の意見や行動を尊重しないこと」は9.2ポイント高くなっている。

◎高齢者の人権が守られるために必要なこと

問11 高齢者の人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(✓はいくつでも)



「生活保障（年金など）の充実」が5割台後半

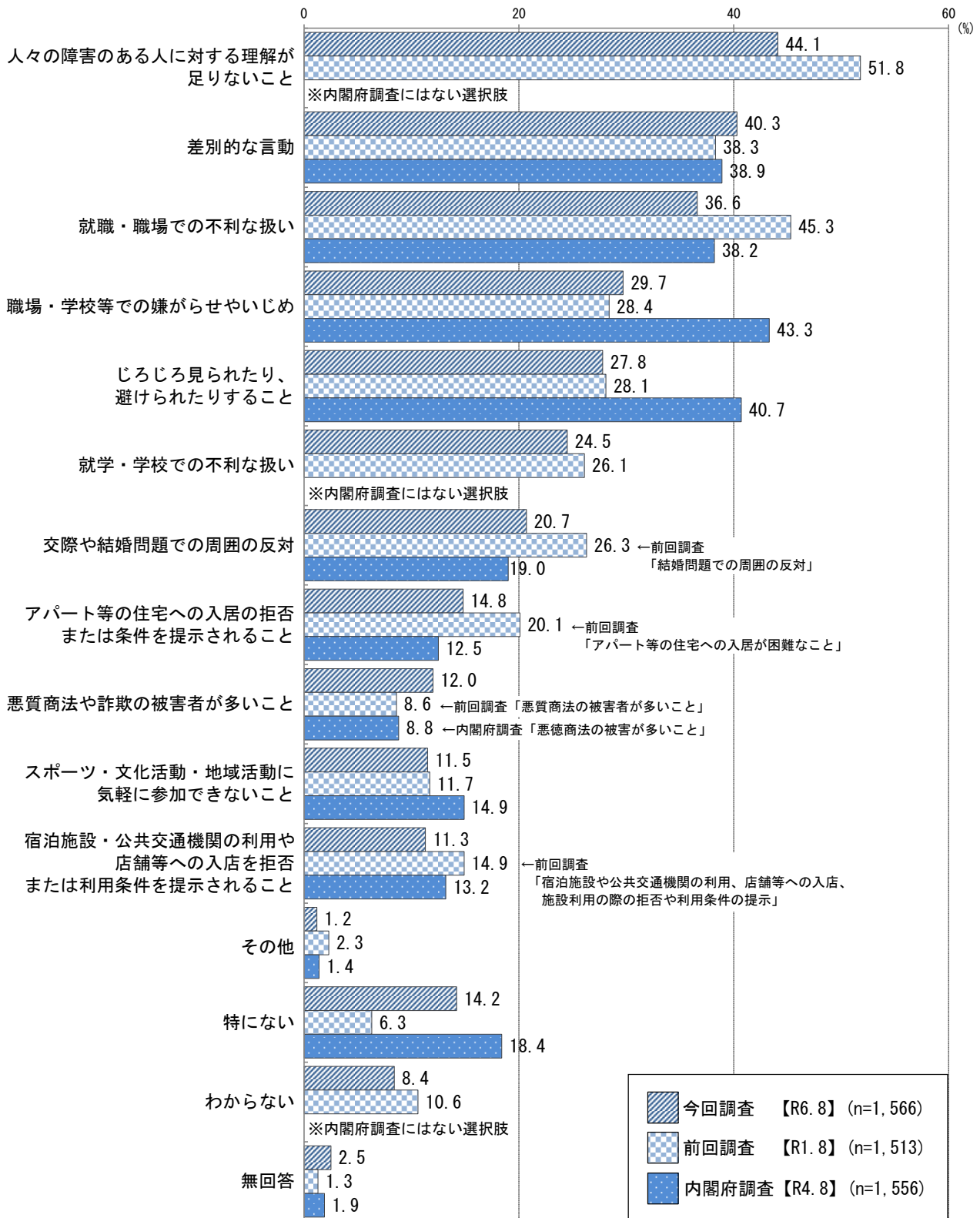
質問の回答数について、前回調査では「✓は5つまで」だったが、今回調査では「✓はいくつでも」に変更している。

高齢者の人権が守られるために必要なことについて、「生活保障（年金など）の充実」が57.8%と最も高く、次いで「保健・福祉・医療サービスの充実」（54.5%）、「働く意欲のある高齢者の就労の場の確保」（53.5%）、「自立して生活しやすい環境の整備」（52.9%）となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

◎障害のある人に関する人権問題だと思う事柄

問12 あなたが、障害のある人に関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。(✓はいくつでも)



「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」が4割台半ば

質問を前回調査の「あなたは、障害のある人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。(✓はいくつでも)」から変更している。

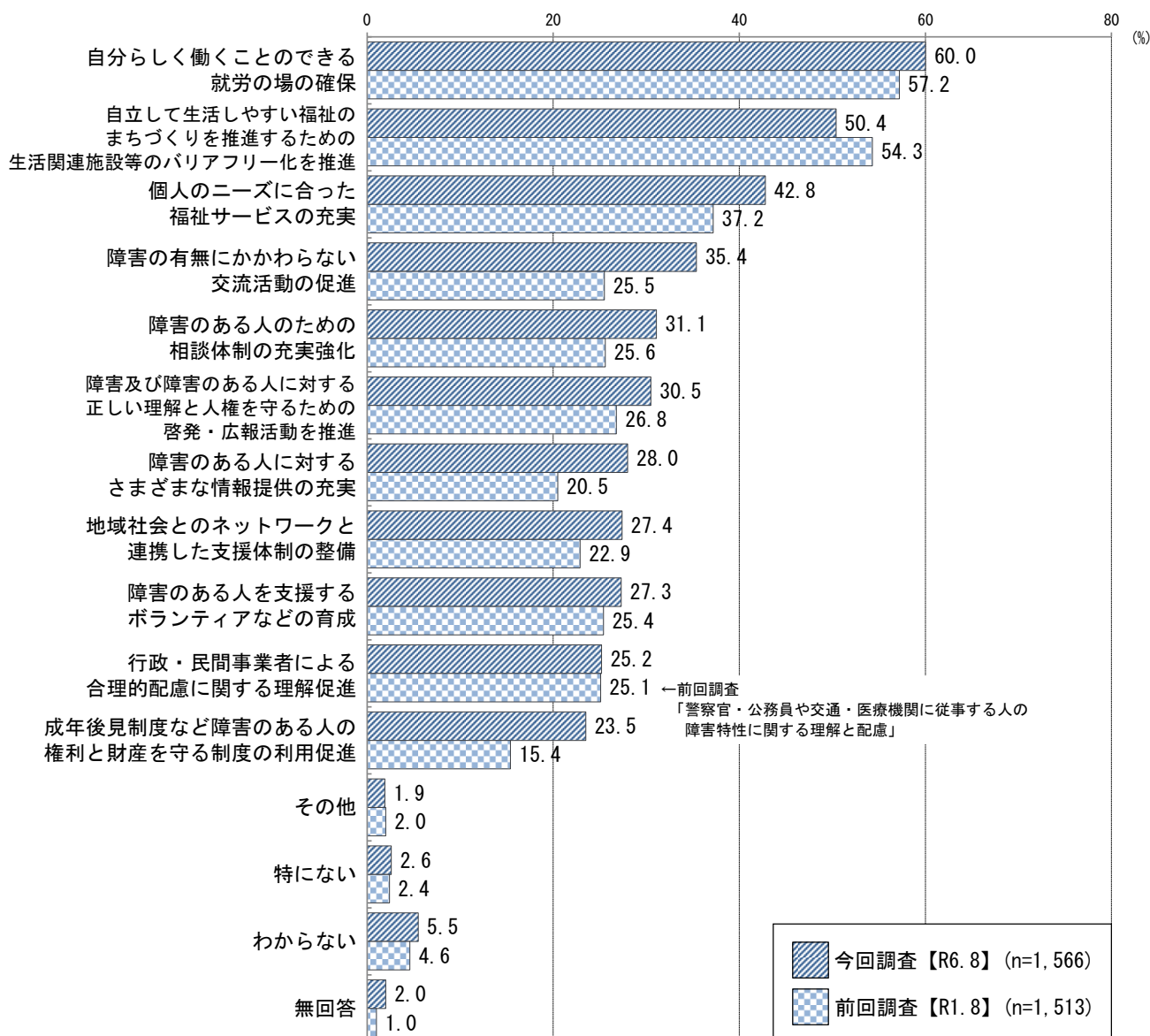
障害のある人に関する人権問題だと思う事柄について、「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」が44.1%と最も高く、次いで「差別的な言動」(40.3%)、「就職・職場での不利な扱い」(36.6%)となっている。

前回調査と比較すると、「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」は7.7ポイント、「就職・職場での不利な扱い」は8.7ポイント低くなっている。

内閣府調査と比較すると、「職場・学校等での嫌がらせやいじめ」は13.6ポイント、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」は12.9ポイント低くなっている。

◎障害のある人の人権が守られるために必要なこと

問13 障害のある人の人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(✓はいくつでも)



「自分らしく働くことのできる就労の場の確保」が6割

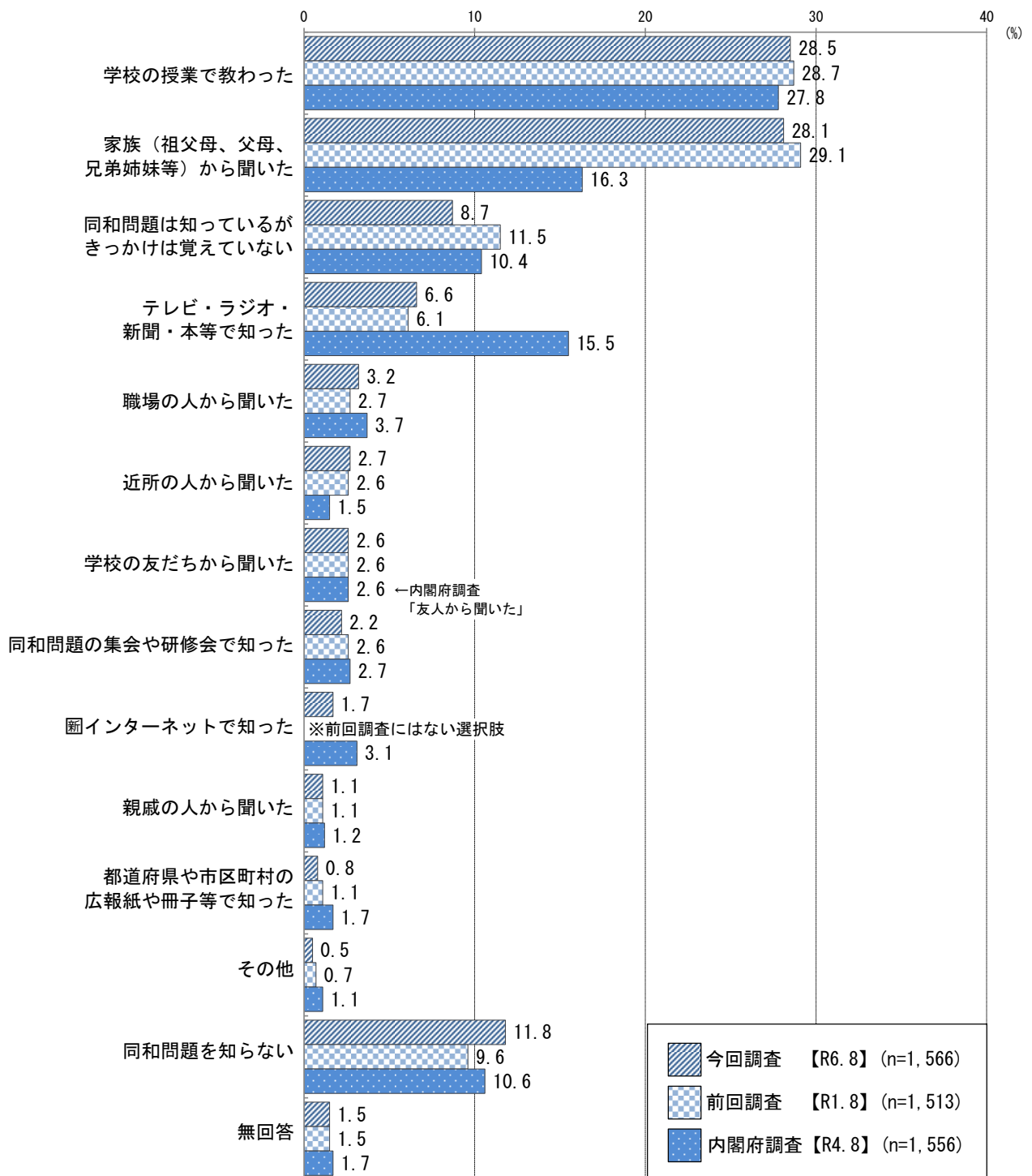
質問の回答数について、前回調査では「✓は5つまで」だったが、今回調査では「✓はいくつでも」に変更している。

障害のある人の人権が守られるために必要なことについて、「自分らしく働くことのできる就労の場の確保」が60.0%と最も高く、次いで「自立して生活しやすい福祉のまちづくりを推進するための生活関連施設等のバリアフリー化を推進」(50.4%)、「個人のニーズに合った福祉サービスの充実」(42.8%)となっている。

前回調査と比較すると、「障害の有無にかかわらない交流活動の促進」は 9.9 ポイント、「障害のある人に対するさまざまな情報提供の充実」は 7.5 ポイント、「成年後見制度など障害のある人の権利と財産を守る制度の利用促進」は 8.1 ポイント高くなっている。

◎同和問題を知ったきっかけ

問14 あなたが、同和問題について、初めて知ったきっかけは、何ですか。(✓は1つ)



「学校の授業で教わった」、「家族から聞いた」が2割台後半

同和問題を知ったきっかけについて、「学校の授業で教わった」が28.5%と最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）から聞いた」（28.1%）、「同和問題は知っているがきっかけは覚えていない」（8.7%）となっている。

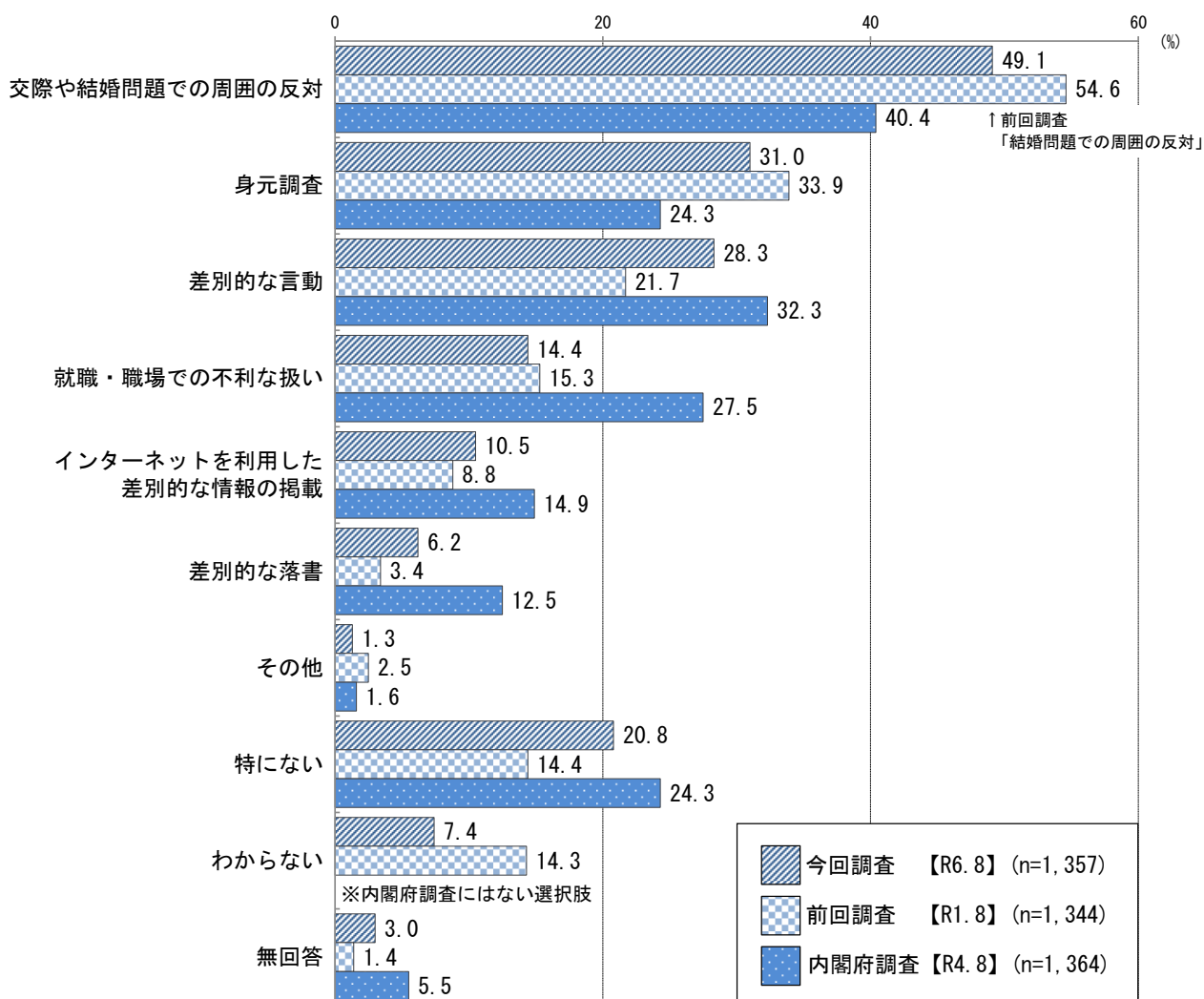
前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

内閣府調査と比較すると、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）から聞いた」は11.8ポイント高くなっており、「テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った」は8.9ポイント低くなっている。

◎同和問題に関する人権問題だと思う事柄

(問 14 で「1～12」と答えた方にお聞きします。)

問14-1 あなたが、同和問題に関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。(✓はいくつでも)



「交際や結婚問題での周囲の反対」が約5割

質問を前回調査の「あなたは、同和問題に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。(✓はいくつでも)」から変更している。

同和問題に関する人権問題だと思う事柄について、「交際や結婚問題での周囲の反対」が49.1%と最も高く、次いで「身元調査」(31.0%)、「差別的な言動」(28.3%)となっている。

前回調査と比較すると、「差別的な言動」は6.6ポイント高くなっている。

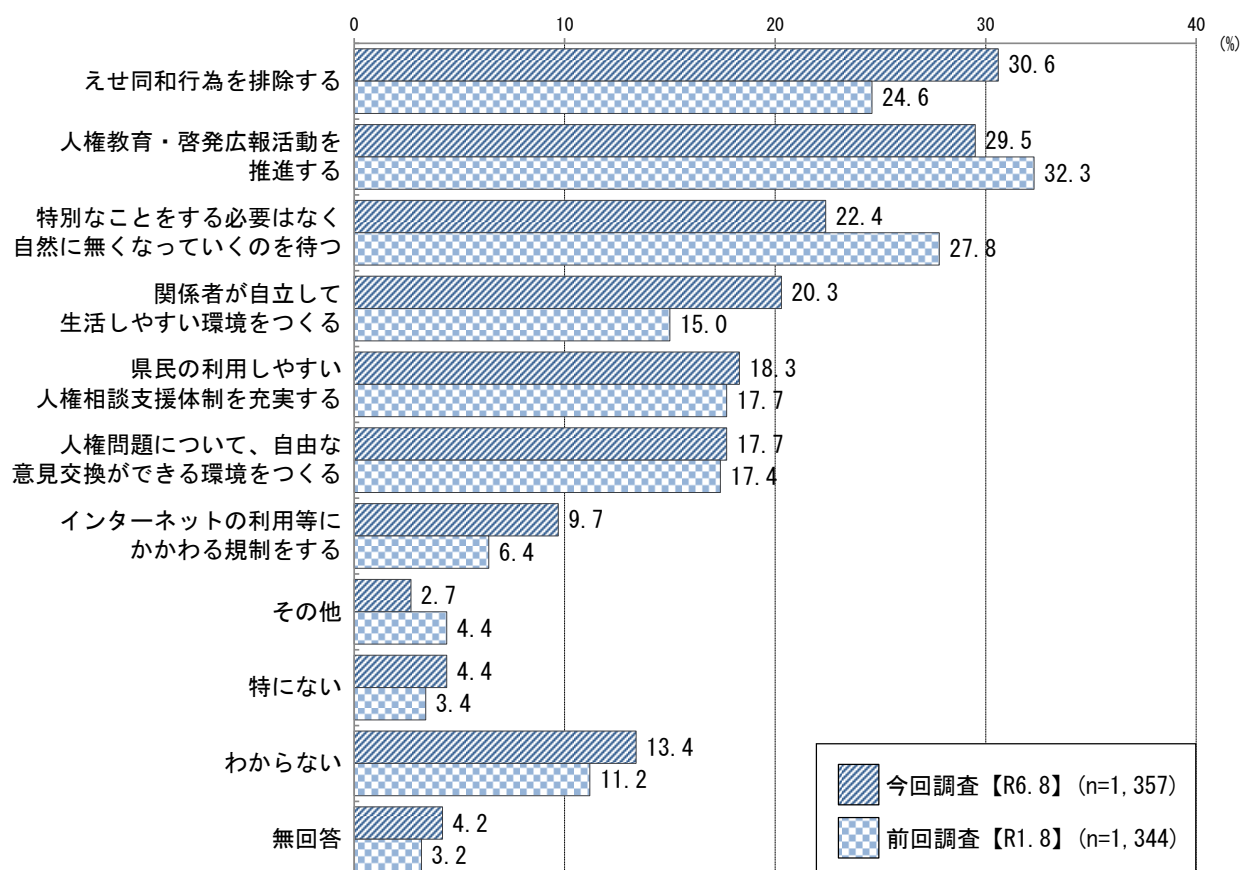
内閣府調査と比較すると、「交際や結婚問題での周囲の反対」は 8.7 ポイント、「身元調査」は 6.7 ポイント高くなっており、「就職・職場での不利な扱い」は 13.1 ポイント、「差別的な落書」は 6.3 ポイント低くなっている。

◎同和問題を解決するために必要なこと

(問 14 で「1～12」と答えた方にお聞きします。)

問14-2 同和問題の解決のためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(✓はいくつでも)



「えせ同和行為を排除する」、「人権教育・啓発広報活動を推進する」が約3割

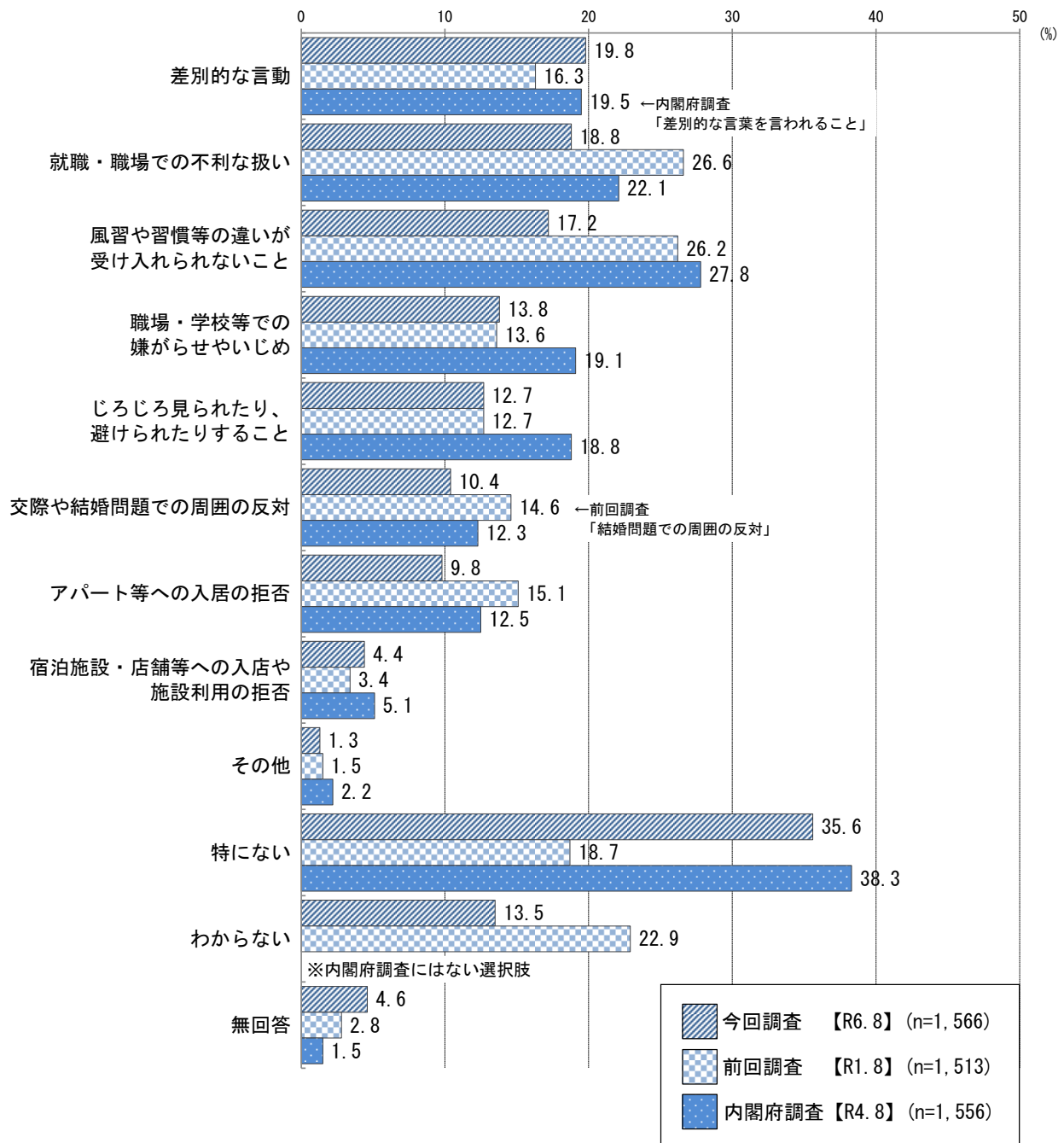
質問の回答数について、前回調査では「✓は3つまで」だったが、今回調査では「✓はいくつでも」に変更している。

同和問題を解決するために必要なことについて、「えせ同和行為を排除する」が30.6%と最も高く、次いで「人権教育・啓発広報活動を推進する」(29.5%)、「特別なことをする必要はなく自然に無くなっていくのを待つ」(22.4%)となっている。

前回調査と比較すると、「えせ同和行為を排除する」は6.0ポイント、「関係者が自立して生活しやすい環境をつくる」は5.3ポイント高くなっており、「特別なことをする必要はなく自然に無くなっていくのを待つ」は5.4ポイント低くなっている。

◎在住外国人に関する人権問題だと思う事柄

問15 あなたが、在住外国人に関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。(✓はいくつでも)



「差別的な言動」、「就職・職場での不利な扱い」が約2割

質問を前回調査の「あなたは、在住外国人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。(✓はいくつでも)」から変更している。

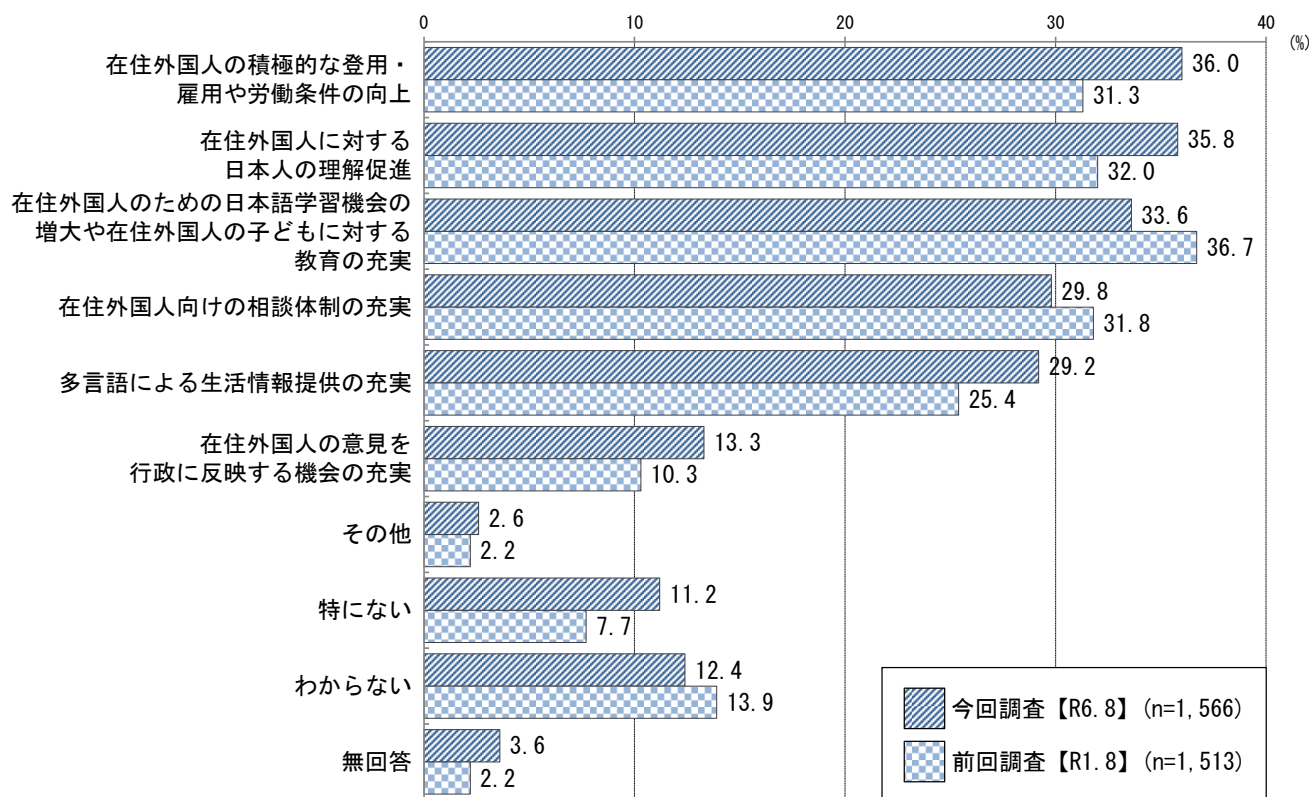
在住外国人に関する人権問題だと思ふ事柄について、「差別的な言動」が19.8%と高く、次いで「就職・職場での不利な扱い」(18.8%)、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」(17.2%)となっている。また、「特にない」は35.6%となっている。

前回調査と比較すると、「就職・職場での不利な扱い」は7.8ポイント、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」は9.0ポイント、「アパート等への入居の拒否」は5.3ポイント低くなっている。

内閣府調査と比較すると、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」は10.6ポイント、「職場・学校等での嫌がらせやいじめ」は5.3ポイント、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」は6.1ポイント低くなっている。

◎在住外国人の人権が守られるために必要なこと

問16 在住外国人の人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(✓はいくつでも)



「在住外国人の積極的な登用・雇用や労働条件の向上」が3割台後半

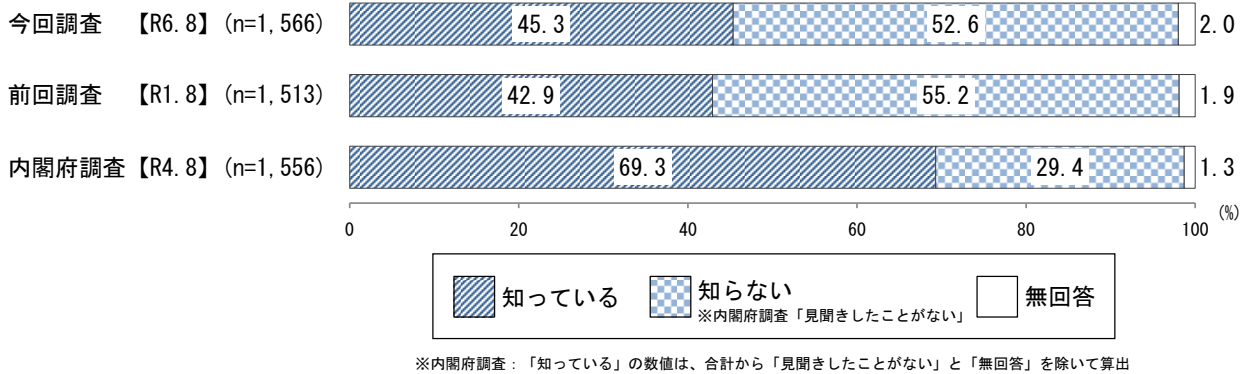
質問の回答数について、前回調査では「✓は3つまで」だったが、今回調査では「✓はいくつでも」に変更している。

在住外国人の人権が守られるために必要なことについて、「在住外国人の積極的な登用・雇用や労働条件の向上」が36.0%と最も高く、次いで「在住外国人に対する日本人の理解促進」(35.8%)、「在住外国人のための日本語学習機会の増大や在住外国人の子どもに対する教育の充実」(33.6%)となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

◎ヘイトスピーチを伴う活動の認知度

問17 あなたは、ヘイトスピーチを伴うデモ、集会、街宣活動、インターネット上の書き込み等を知っていますか。(✓は1つ)



「知らない」が5割台前半

質問を前回調査の「あなたは、ヘイトスピーチを伴うデモ、集会、街宣活動等を知っていますか。(✓は1つ)」から変更している。

ヘイトスピーチを伴う活動の認知度について、「知っている」は45.3%、「知らない」は52.6%となっている。

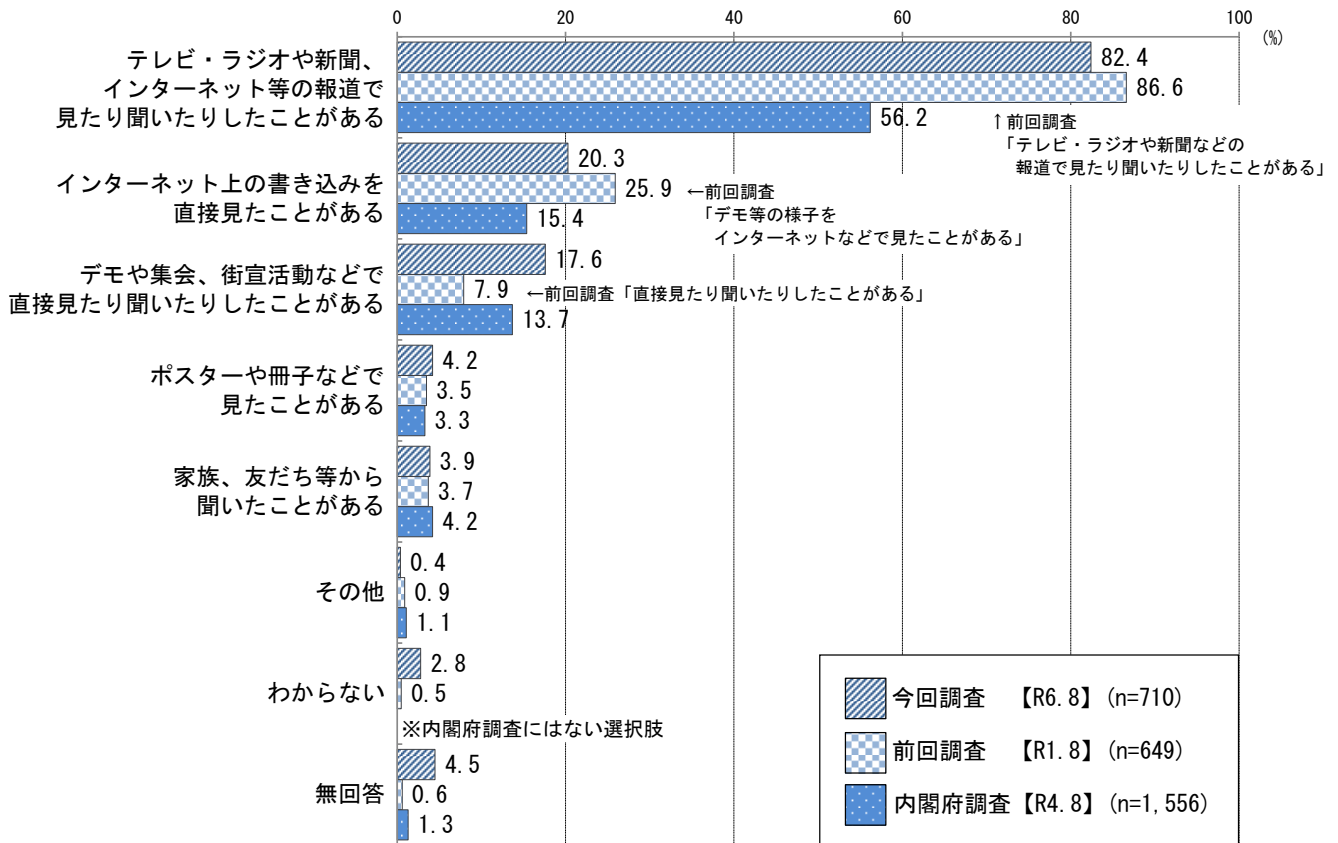
前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

※内閣府調査では、「知っている」、「知らない」の2択ではないためコメントは記載しない。

◎ヘイトスピーチを伴う活動を知ったきっかけ

(問17で「知っている」と答えた方にお聞きます。)

問17-1 あなたは、そのようなデモ等をどのようにして知りましたか。(✓はいくつでも)



「テレビ・ラジオや新聞、インターネット等の報道で見たたり聞いたりしたことがある」が8割台前半

ヘイトスピーチを伴う活動を知ったきっかけについて、「テレビ・ラジオや新聞、インターネット等の報道で見たたり聞いたりしたことがある」が82.4%と最も高く、次いで「インターネット上の書き込みを直接見たことがある」(20.3%)、「デモや集会、街宣活動などで直接見たたり聞いたりしたことがある」(17.6%)となっている。

前回調査と比較すると、「デモや集会、街宣活動などで直接見たたり聞いたりしたことがある」は9.7ポイント高くなっている。

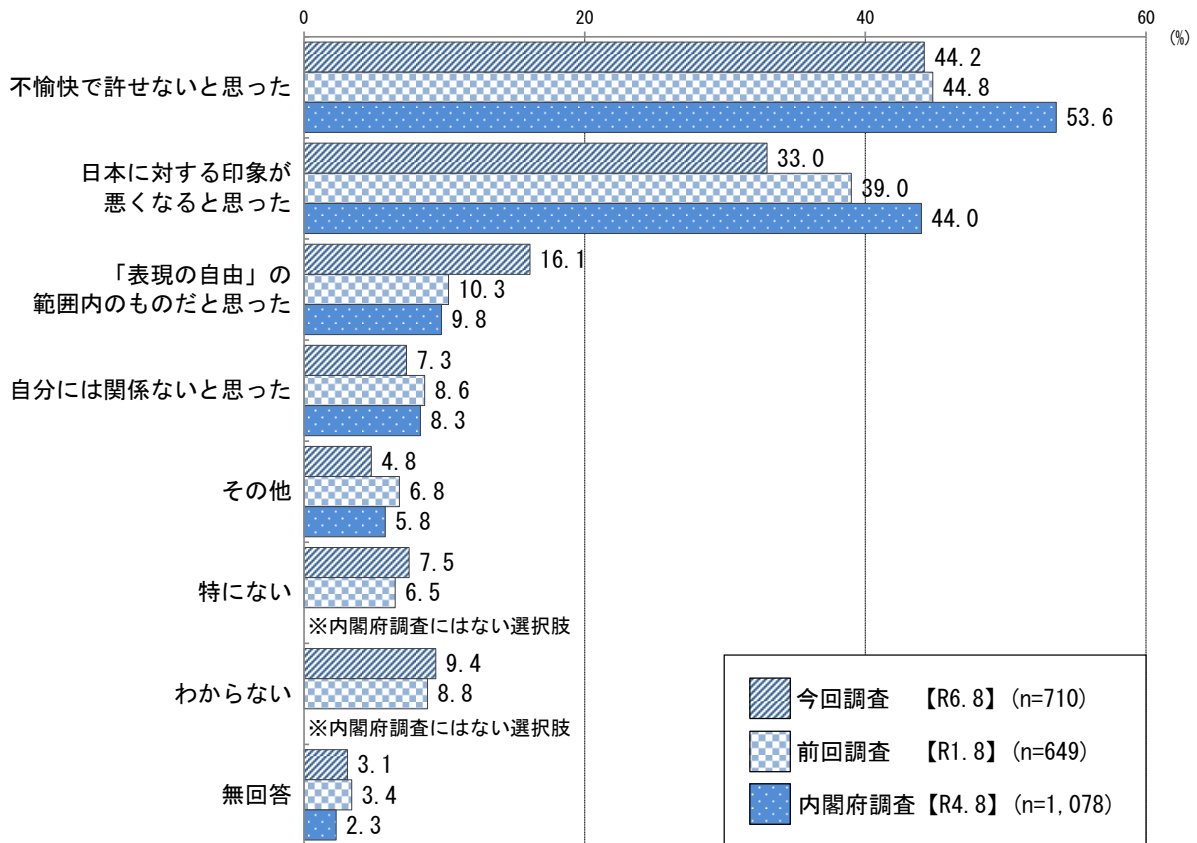
内閣府調査と比較すると、「テレビ・ラジオや新聞、インターネット等の報道で見たたり聞いたりしたことがある」は26.2ポイント高くなっている。

◎ヘイトスピーチを伴う活動を見聞きして思ったこと

(問17で「知っている」と答えた方にお聞きます。)

問17-2 あなたは、そのようなデモ等を見聞きしてどのように思いましたか。

(✓はいくつでも)



「不愉快で許せないと思った」が4割台半ば

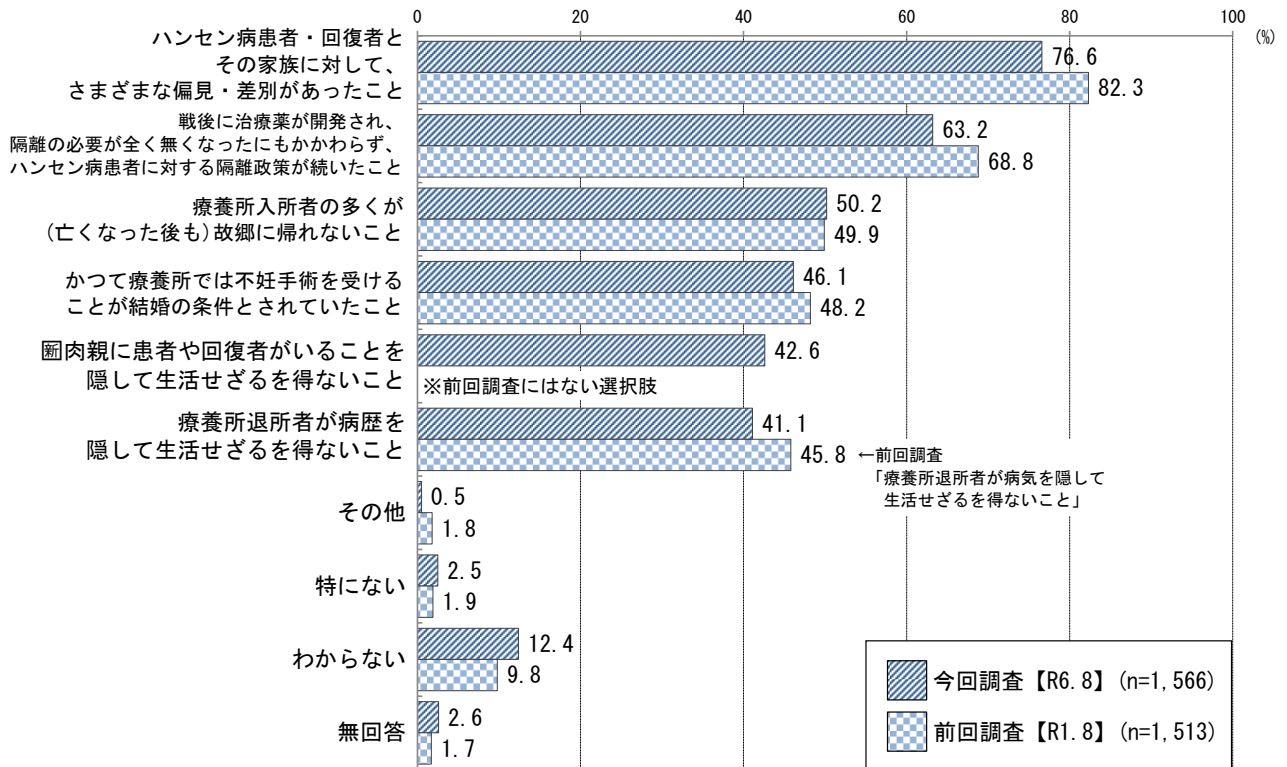
ヘイトスピーチを伴う活動を見聞きして思ったことについて、「不愉快で許せないと思った」が44.2%と最も高く、次いで「日本に対する印象が悪くなると思った」(33.0%)、「『表現の自由』の範囲内のものだと思った」(16.1%)となっている。

前回調査と比較すると、「日本に対する印象が悪くなると思った」は6.0ポイント低くなっており、「『表現の自由』の範囲内のものだと思った」は5.8ポイント高くなっている。

内閣府調査と比較すると、「不愉快で許せないと思った」は9.4ポイント、「日本に対する印象が悪くなると思った」は11.0ポイント低くなっており、「『表現の自由』の範囲内のものだと思った」は6.3ポイント高くなっている。

◎ハンセン病に関してどのような人権問題が起きていたか知っている事柄

問18 あなたは、ハンセン病問題に関する事柄で、どのような人権問題が起きていたか(いるか)知っていますか。(✓はい/×いいえ)



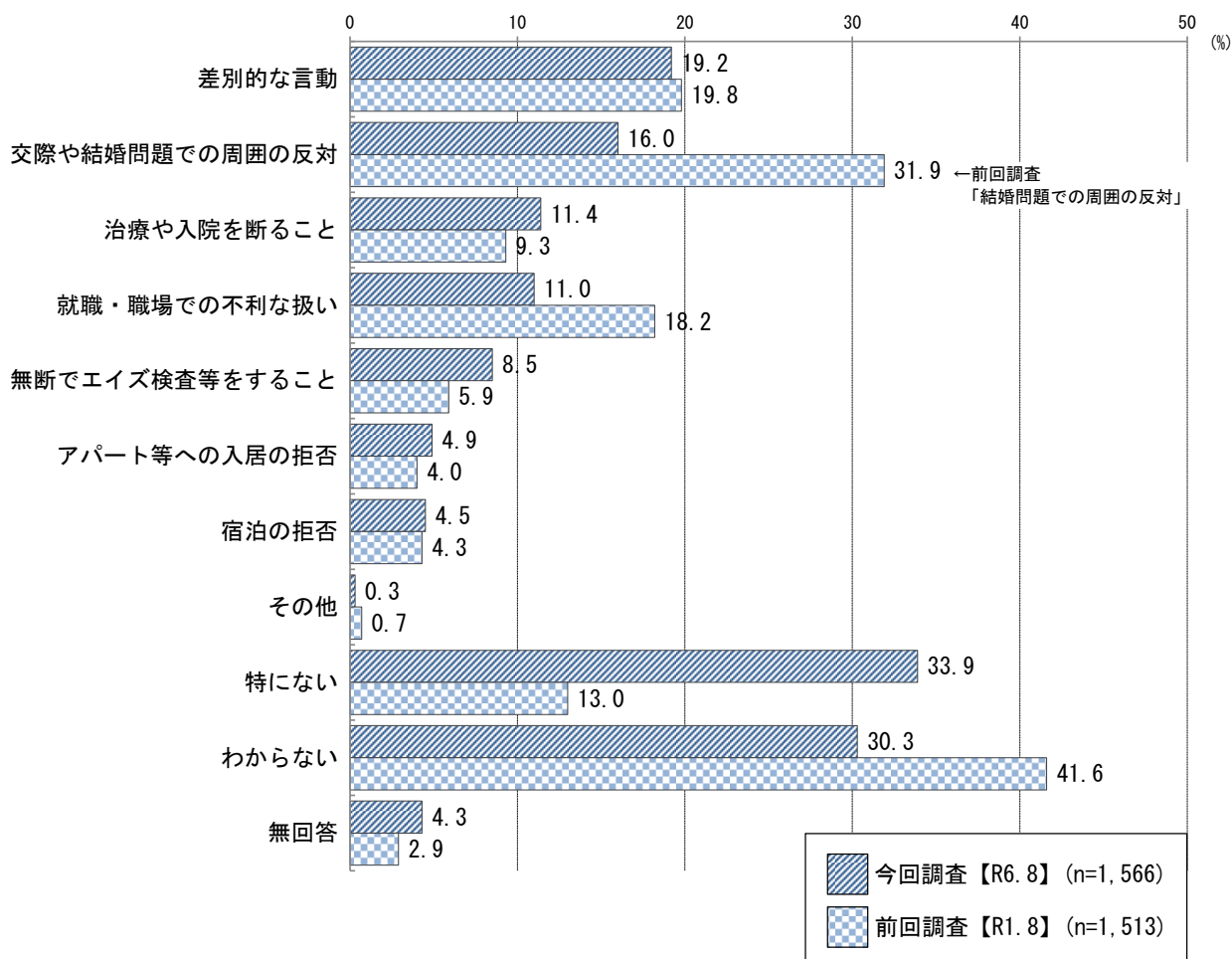
「ハンセン病患者・回復者とその家族に対して、さまざまな偏見・差別があったこと」が7割台後半

ハンセン病に関してどのような人権問題が起きていたか知っている事柄について、「ハンセン病患者・回復者とその家族に対して、さまざまな偏見・差別があったこと」が76.6%と最も高く、次いで「戦後に治療薬が開発され、隔離の必要が全く無くなったにもかかわらず、ハンセン病患者に対する隔離政策が続いたこと」(63.2%)、「療養所入所者の多くが(亡くなった後も)故郷に帰れないこと」(50.2%)となっている。

前回調査と比較すると、「ハンセン病患者・回復者とその家族に対して、さまざまな偏見・差別があったこと」は5.7ポイント、「戦後に治療薬が開発され、隔離の必要が全く無くなったにもかかわらず、ハンセン病患者に対する隔離政策が続いたこと」は5.6ポイント低くなっている。

◎HIV感染者等に関する人権問題だと思う事柄

問19 あなたが、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。
(✓はいくつでも)



「差別的な言動」が約2割

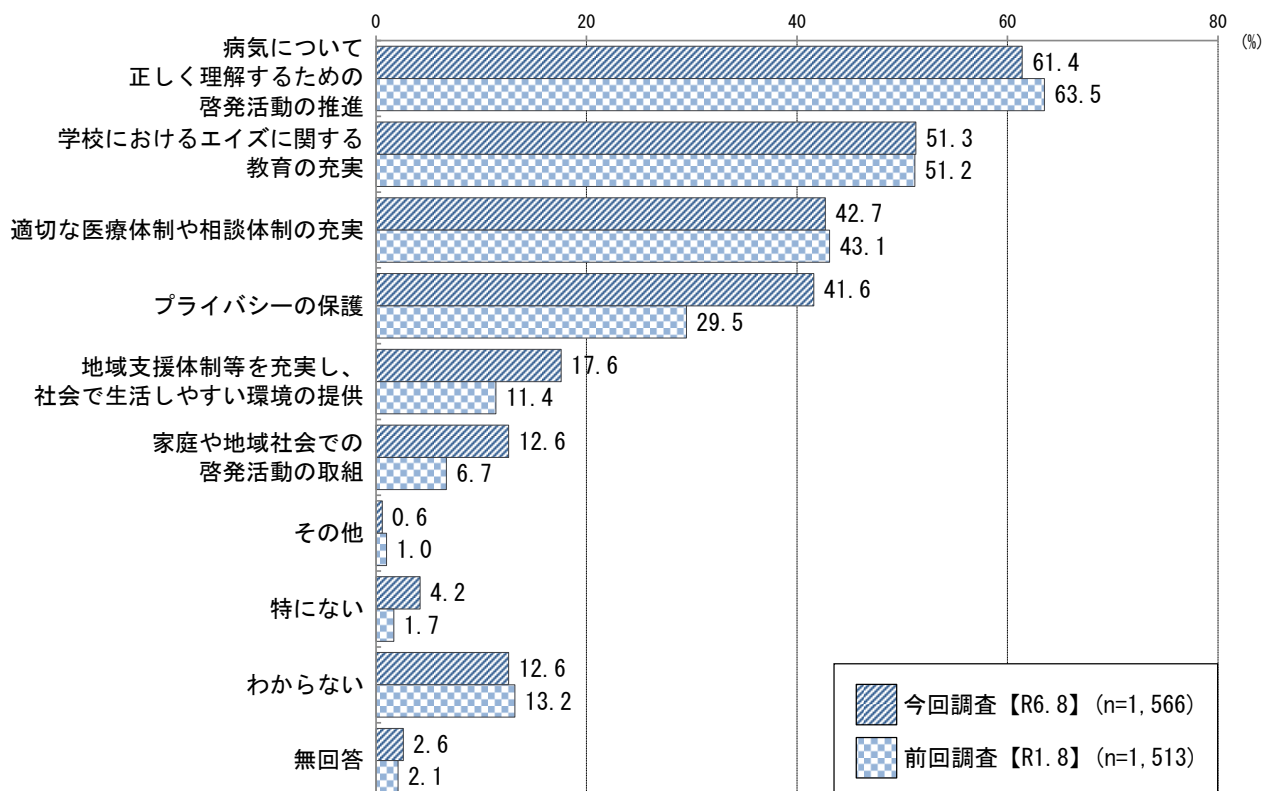
質問を前回調査の「あなたは、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染者等に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。(✓はいくつでも)」から変更している。

HIV感染者等に関する人権問題だと思う事柄について、「差別的な言動」が19.2%と高く、次いで「交際や結婚問題での周囲の反対」(16.0%)、「治療や入院を断ること」(11.4%)、「就職・職場での不利な扱い」(11.0%)となっている。また、「特にない」は33.9%、「わからない」は30.3%となっている。

前回調査と比較すると、「交際や結婚問題での周囲の反対」は15.9ポイント、「就職・職場での不利な扱い」は7.2ポイント低くなっている。

◎HIV感染者等の人権が守られるために必要なこと

問20 HIV感染者等の人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(✓はいくつでも)



「病気について正しく理解するための啓発活動の推進」が6割台前半

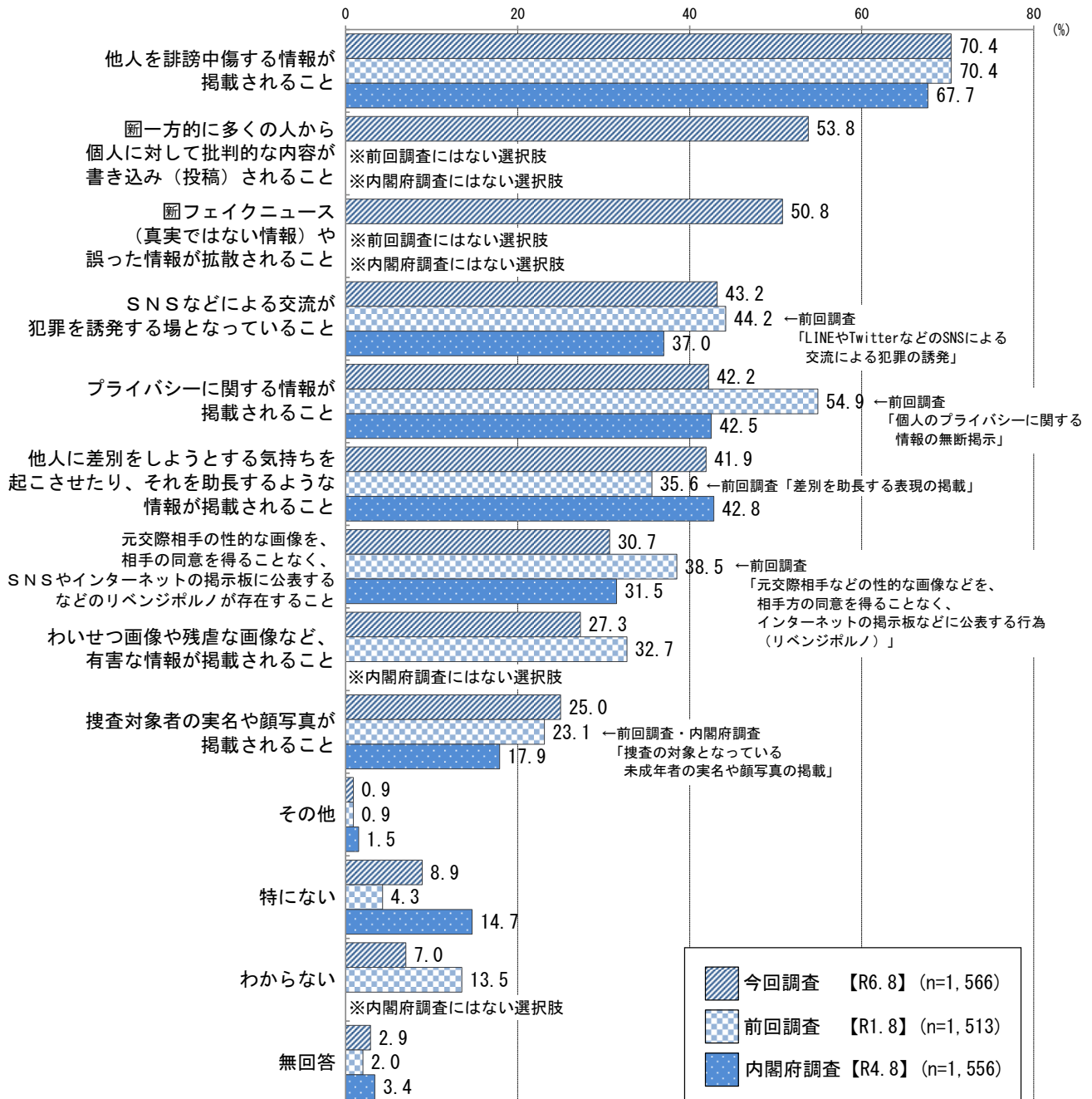
質問の回答数について、前回調査では「✓は3つまで」だったが、今回調査では「✓はいくつでも」に変更している。

HIV感染者等の人権が守られるために必要なことについて、「病気について正しく理解するための啓発活動の推進」が61.4%と最も高く、次いで「学校におけるエイズに関する教育の充実」(51.3%)、「適切な医療体制や相談体制の充実」(42.7%)、「プライバシーの保護」(41.6%)となっている。

前回調査と比較すると、「プライバシーの保護」は12.1ポイント、「地域支援体制等を充実し、社会で生活しやすい環境の提供」は6.2ポイント、「家庭や地域社会での啓発活動の取組」は5.9ポイント高くなっている。

◎インターネットに関する人権問題だと思う事柄

問21 あなたが、インターネットによる人権侵害に関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。
(✓はいくつでも)



「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が約7割

質問を前回調査の「あなたは、インターネットによる人権侵害に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。」から変更している。

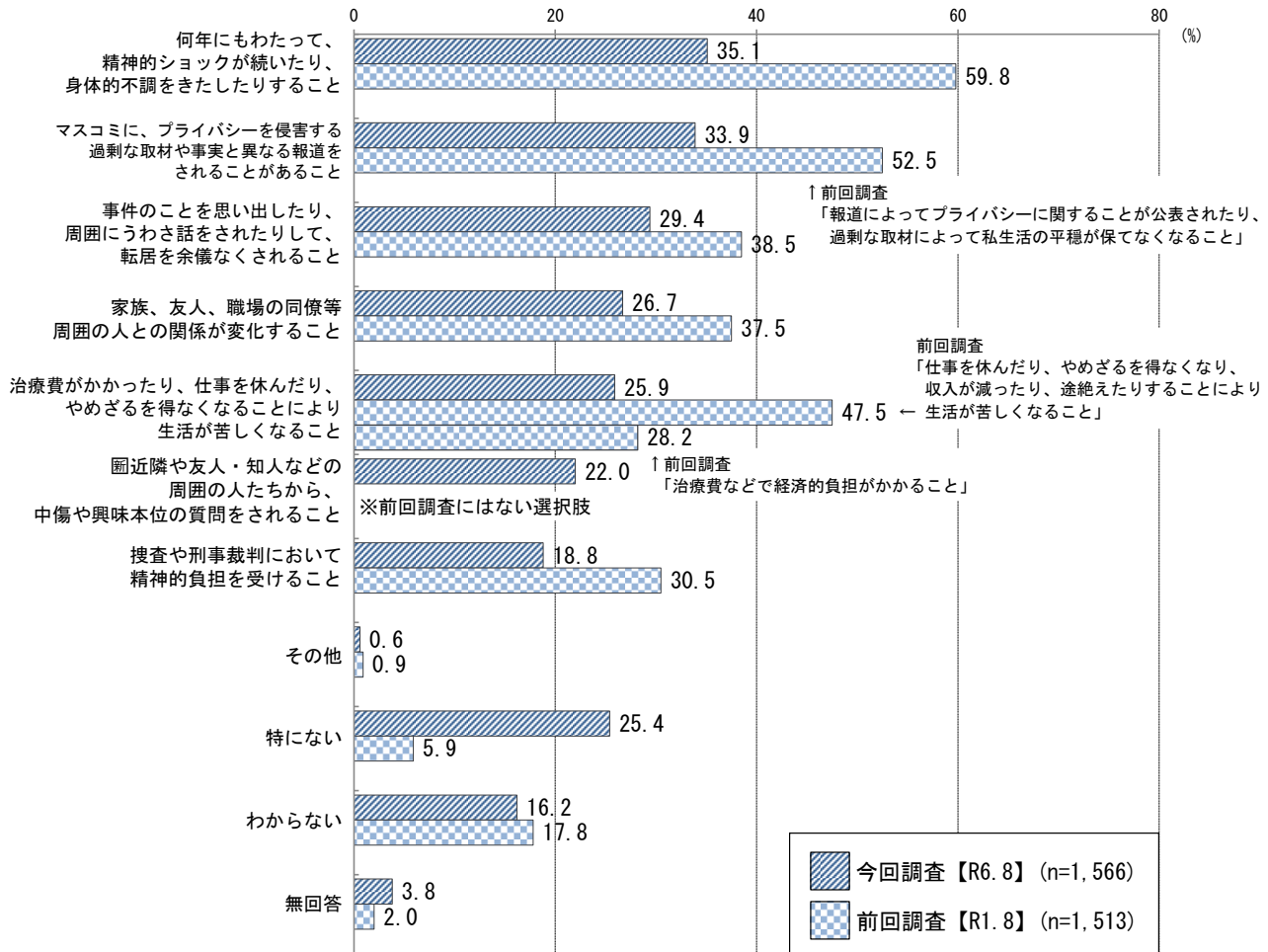
インターネットに関する人権問題だと思う事柄について、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が70.4%と最も高く、次いで「一方的に多くの人から個人に対して批判的な内容が書き込み（投稿）されること」（53.8%）、「フェイクニュース（真実ではない情報）や誤った情報が拡散されること」（50.8%）となっている。

前回調査と比較すると、「プライバシーに関する情報が掲載されること」は12.7ポイント、「元交際相手の性的な画像を、相手の同意を得ることなく、SNSやインターネットの掲示板に公表するなどのリベンジポルノが存在すること」は7.8ポイント、「わいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報が掲載されること」は5.4ポイント低くなっている。

内閣府調査と比較すると、「SNSなどによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」は6.2ポイント高くなっている。

◎犯罪被害者等に関する人権問題だと思う事柄

問22 あなたが、犯罪被害者及びその家族や遺族に関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。
(✓はいくつでも)



「何年にもわたって、精神的ショックが続いたり、身体的不調をきたしたりすること」が3割台半ば

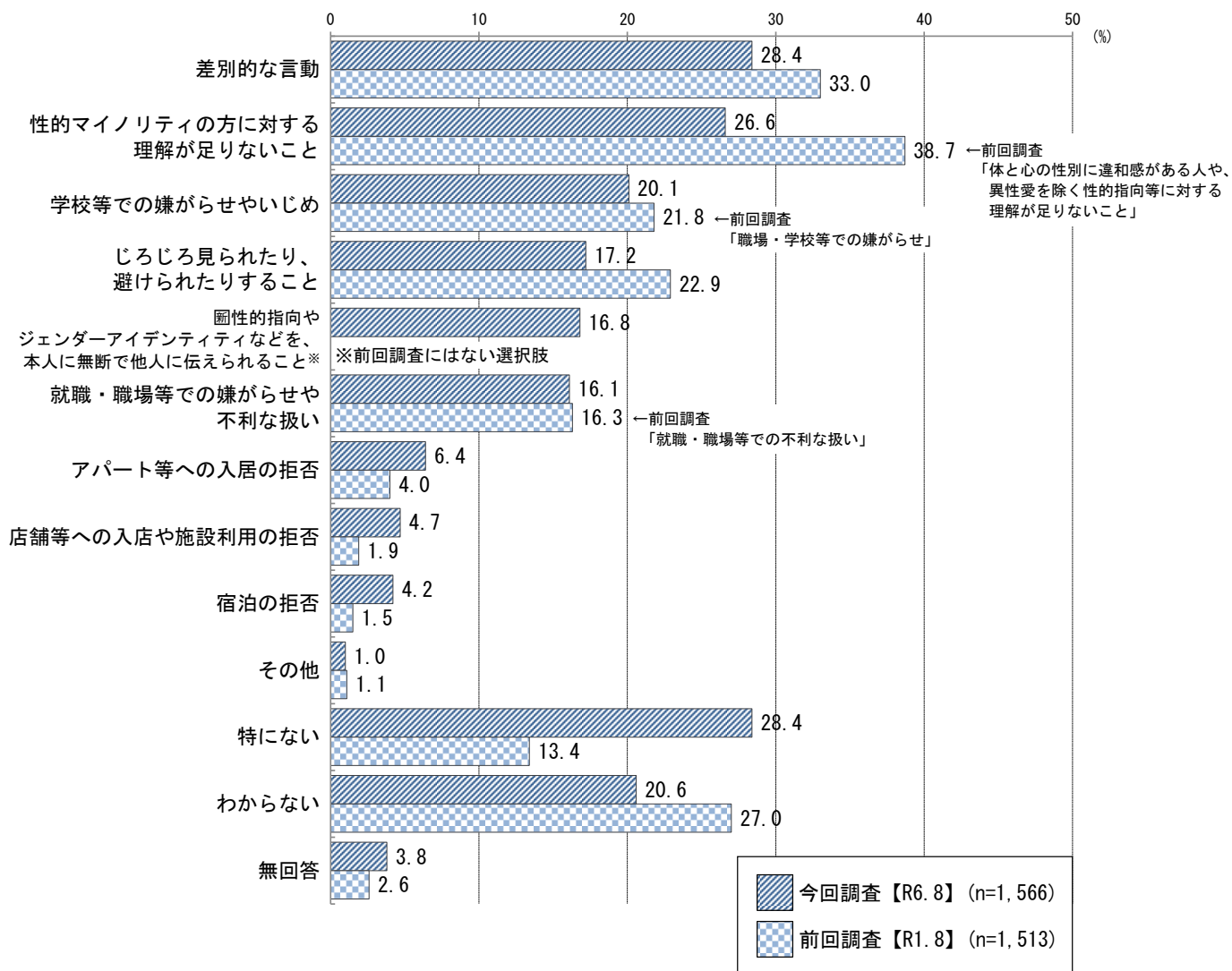
質問を前回調査の「あなたは、犯罪被害者及びその家族や遺族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。(✓はいくつでも)」から変更している。

犯罪被害者等に関する人権問題だと思う事柄について、「何年にもわたって、精神的ショックが続いたり、身体的不調をきたしたりすること」が35.1%と最も高く、次いで「マスコミに、プライバシーを侵害する過剰な取材や事実と異なる報道をされることがあること」(33.9%)、「事件のことを思い出したり、周囲にうわさ話をされたりして、転居を余儀なくされること」(29.4%)となっている。

前回調査と比較すると、比較できるすべての項目で約10.0ポイント以上低くなっており、特に「何年にもわたって、精神的ショックが続いたり、身体的不調をきたしたりすること」は24.7ポイント低くなっている。

◎性的マイノリティの方に関する人権問題だと思う事柄

問23 あなたが、LGBTQなどの性的マイノリティの方に関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。(✓はいくつでも)



「差別的な言動」が2割台後半

質問を前回調査の「あなたは、体と心の性別に違和感がある人や、異性愛を除く性的指向等に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。(✓はいくつでも)」から変更している。

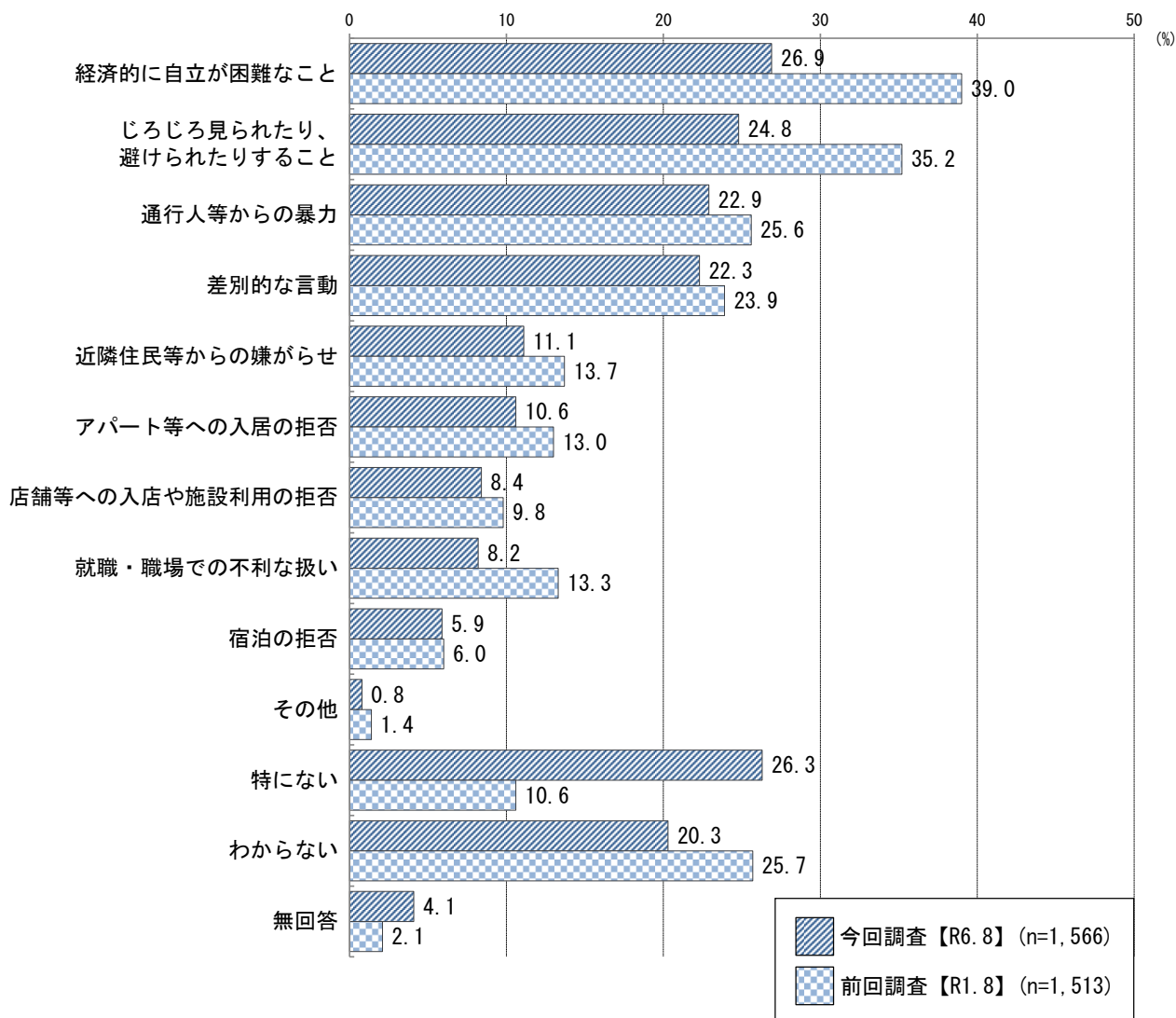
性的マイノリティの方に関する人権問題だと思う事柄について、「差別的な言動」が28.4%と最も高く、次いで「性的マイノリティの方に対する理解が足りないこと」(26.6%)、

「学校等での嫌がらせやいじめ」(20.1%)となっている。また、「特にない」は28.4%となっている。

前回調査と比較すると、「性的マイノリティの方に対する理解が足りないこと」は12.1ポイント、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」は5.7ポイント低くなっている。

◎ホームレスに関する人権問題だと思う事柄

問24 あなたが、ホームレス(路上生活者)に関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。
(✓はいくつでも)



「経済的に自立が困難なこと」が2割台後半

質問を前回調査の「あなたは、ホームレス(路上生活者)に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。(✓はいくつでも)」から変更している。

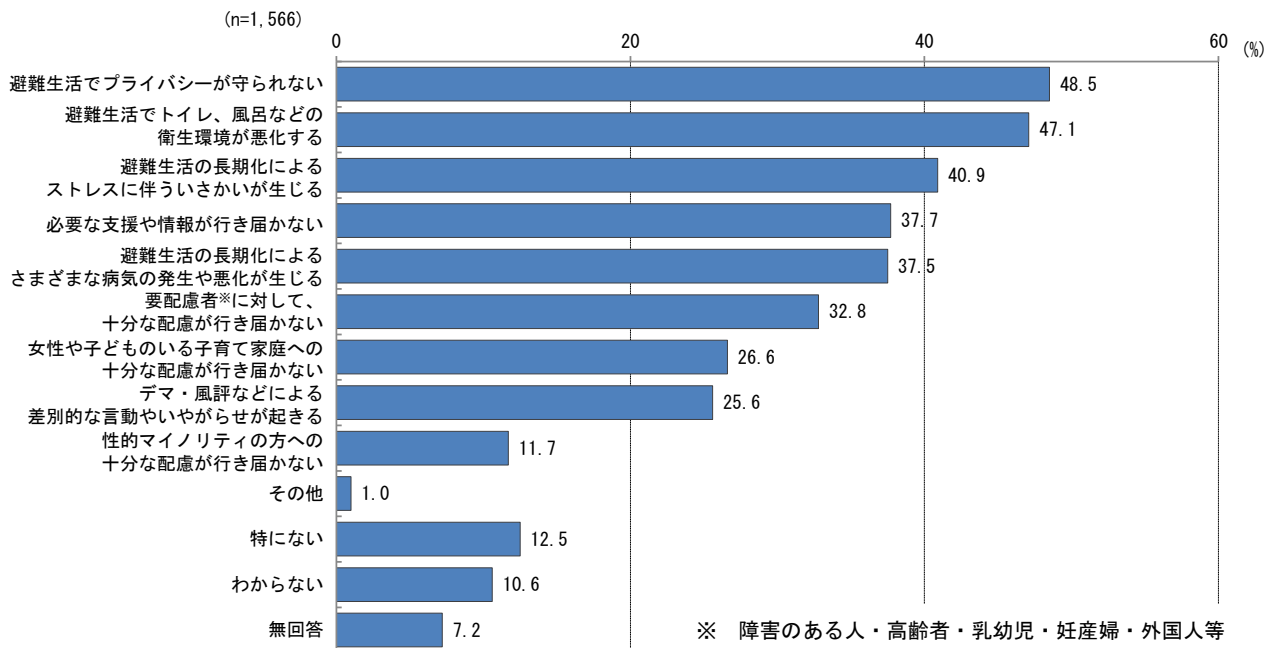
ホームレスに関する人権問題だと思う事柄について、「経済的に自立が困難なこと」が26.9%と最も高く、次いで「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(24.8%)、「通行人等からの暴力」(22.9%)、「差別的な言動」(22.3%)となっている。また、「特にない」は26.3%となっている。

ホームレスに関する人権問題だと思う事柄について、「経済的に自立が困難なこと」が26.9%と最も高く、次いで「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(24.8%)、「通行人等からの暴力」(22.9%)、「差別的な言動」(22.3%)となっている。また、「特にない」は26.3%となっている。

前回調査と比較すると、「経済的に自立が困難なこと」は12.1ポイント、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」は10.4ポイント、「就職・職場での不利な扱い」は5.1ポイント低くなっている。

◎災害等の被災者に関する人権問題だと思う事柄

問25 あなたが、災害等の被災者に関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。(✓はいくつでも)

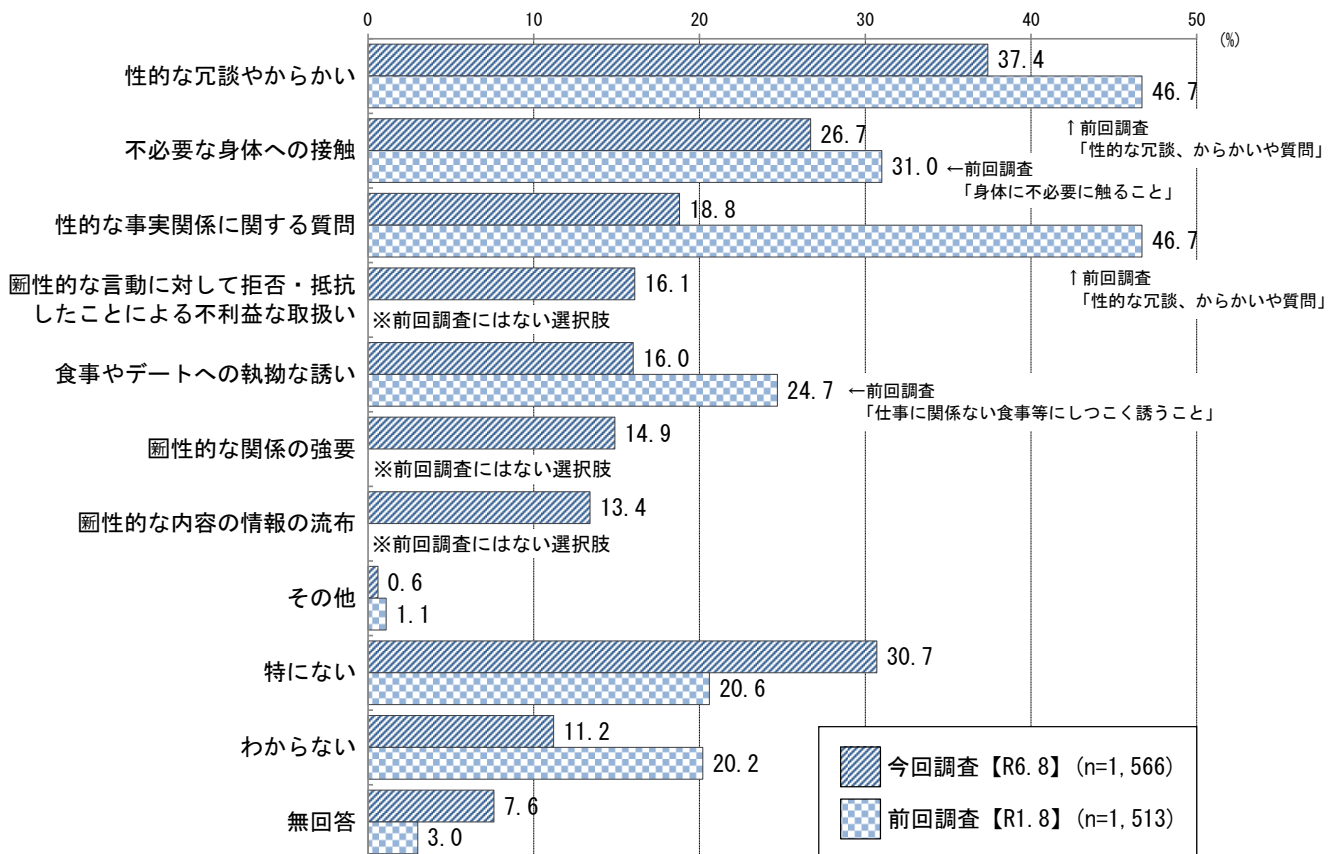


「避難生活でプライバシーが守られない」、「避難生活でトイレ、風呂などの衛生環境が悪化する」が4割台後半

災害等の被災者に関する人権問題だと思う事柄について、「避難生活でプライバシーが守られない」が48.5%と最も高く、次いで「避難生活でトイレ、風呂などの衛生環境が悪化する」(47.1%)、「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいが生じる」(40.9%)となっている。

◎セクシュアル・ハラスメントに関する人権問題だと思う事柄

問26 あなたが、職場などでセクシュアル・ハラスメントに関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。(✓はいくつでも)



「性的な冗談やからかい」が3割台後半

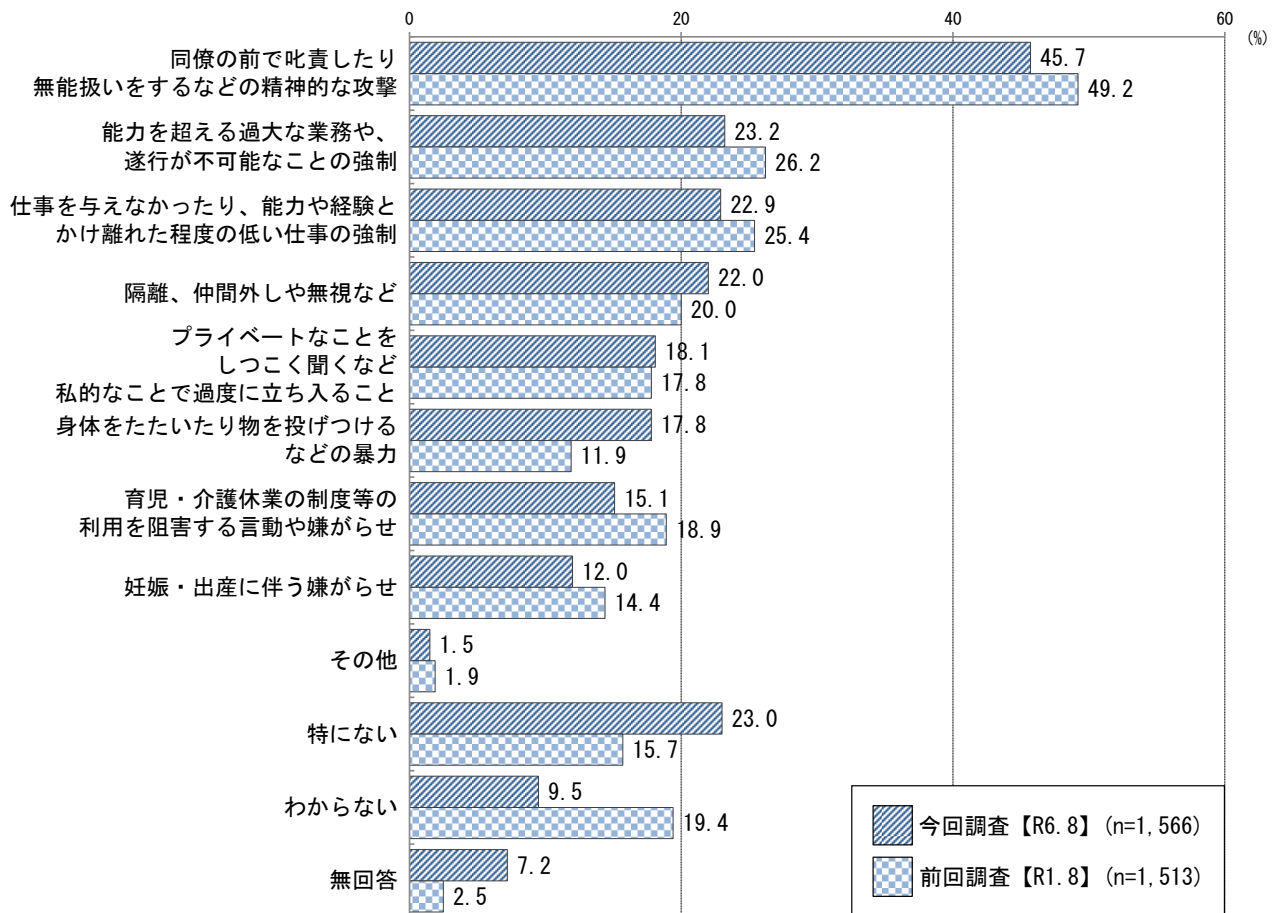
質問を前回調査の「あなたは、職場などでセクシュアル・ハラスメントに関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。(✓はいくつでも)」から変更している。

セクシュアル・ハラスメントに関する人権問題だと思う事柄について、「性的な冗談やからかい」が37.4%と最も高く、次いで「不必要な身体への接触」(26.7%)、「性的な事実関係に関する質問」(18.8%)となっている。

前回調査と比較すると、「食事やデートへの執拗な誘い」は8.7ポイント低くなっている。

◎パワー・ハラスメントやマタニティ・ハラスメントなどに関する人権問題だと思う事柄

問27 あなたが、職場などでパワー・ハラスメントやマタニティ・ハラスメントなどに関する事柄で、直接、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、現在、人権問題だと思うことはどのようなことですか。(✓はいくつでも)



「同僚の前で叱責したり無能扱いをするなどの精神的な攻撃」が4割台半ば

質問を前回調査の「あなたは、職場などでパワー・ハラスメントやマタニティ・ハラスメントなどに関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あなたが、見たり、聞いたり、体験したりしたことを次の中からあげてください。(✓はいくつでも)」から変更している。

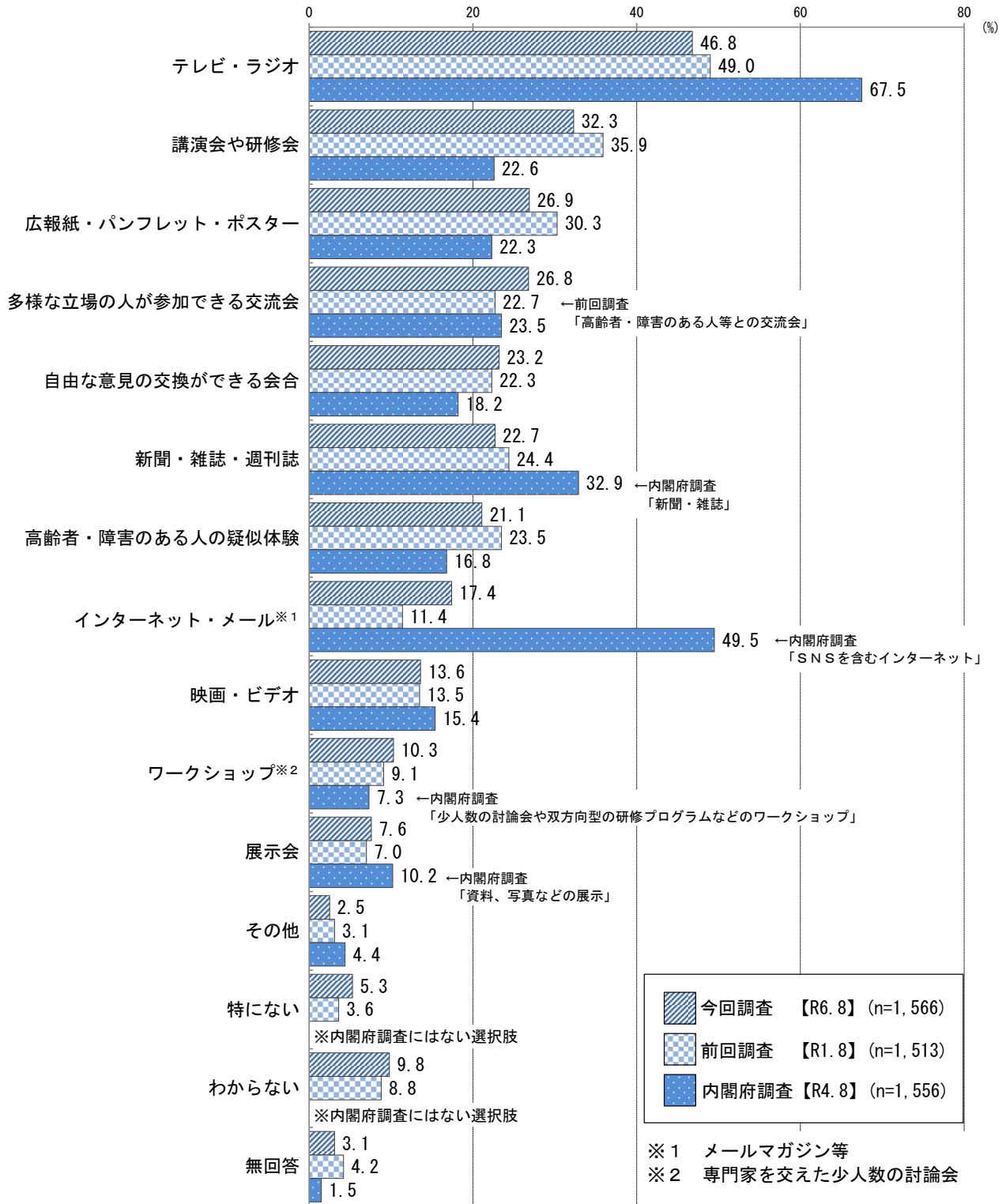
パワー・ハラスメントやマタニティ・ハラスメントなどに関する人権問題だと思う事柄について、「同僚の前で叱責したり無能扱いをするなどの精神的な攻撃」が45.7%と最も高く、次いで「能力を超える過大な業務や、遂行が不可能なことの強制」(23.2%)、「仕事を与えなかったり、能力や経験とかけ離れた程度の低い仕事の強制」(22.9%)、「隔離、仲間外しや無視など」(22.0%)となっている。

前回調査と比較すると、「身体をたたいたり物を投げつけるなどの暴力」は5.9ポイント高くなっている。

3 人権問題の解決のための方策について

◎人権問題を解決するために効果的だと思う啓発広報活動

問28 あなたは、人権問題を解決するためには、県民に対してどのような啓発広報活動が効果的だと思いますか。(✓はいくつでも)



「テレビ・ラジオ」が4割台後半

質問を前回調査の「あなたは、人権啓発を推進するためには、県民に対してどのような啓発広報活動が効果的だと思いますか。(✓はいくつでも)」から変更している。

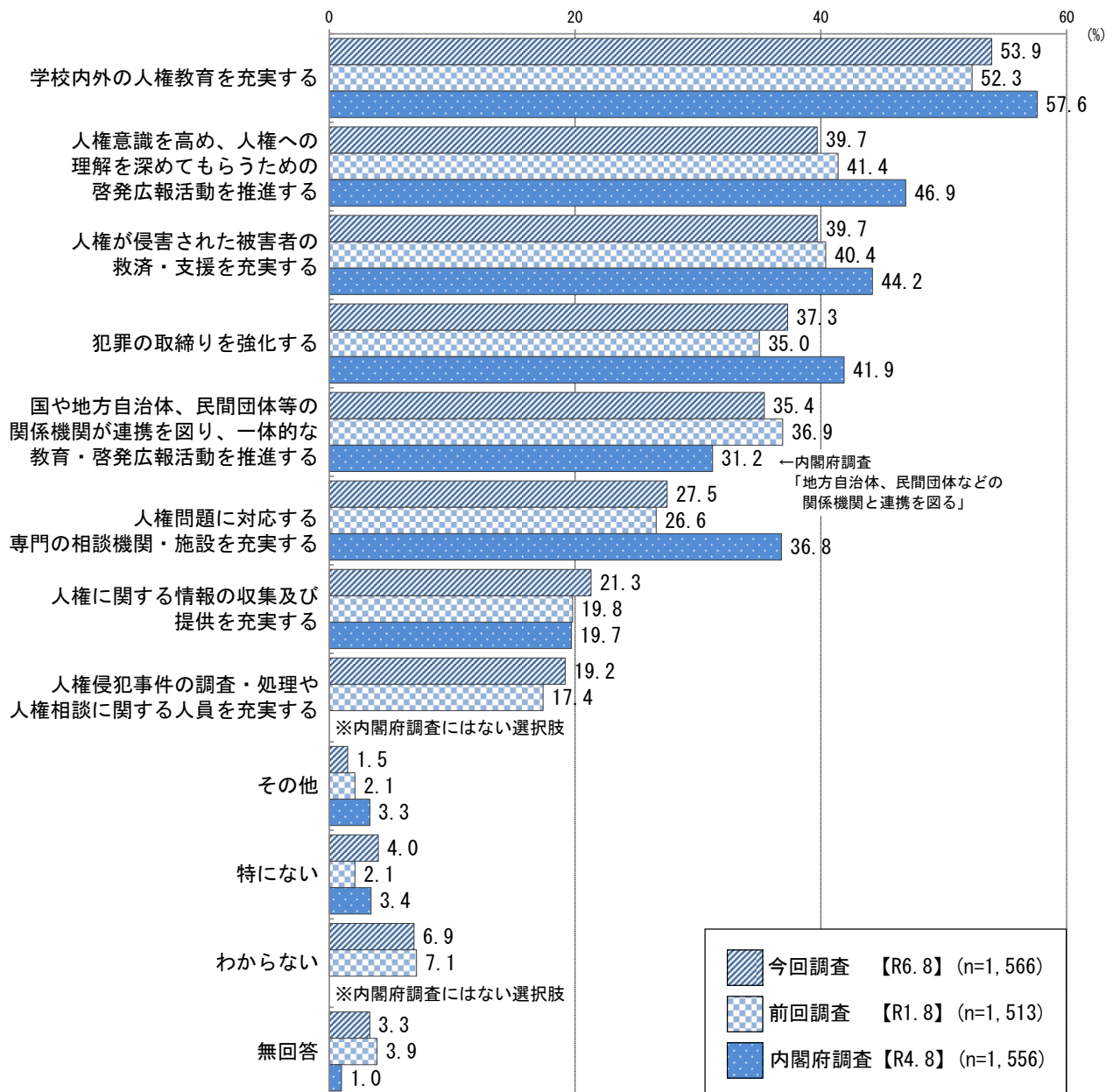
人権問題を解決するために効果的だと思う啓発広報活動について、「テレビ・ラジオ」が46.8%と最も高く、次いで「講演会や研修会」(32.3%)、「広報紙・パンフレット・ポスター」(26.9%)、「多様な立場の人が参加できる交流会」(26.8%)となっている。

前回調査と比較すると、「インターネット・メール」は6.0ポイント高くなっている。

内閣府調査と比較すると、「テレビ・ラジオ」は20.7ポイント、「新聞・雑誌・週刊誌」は10.2ポイント低くなっており、「講演会や研修会」は9.7ポイント、「自由な意見の交換ができる会合」は5.0ポイント高くなっている。

◎人権問題の解決に向けて力を入れていけばよいと思うこと

問29 あなたは、今後、県は、人権問題の解決に向けて、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。(✓はいくつでも)



「学校内外の人権教育を充実する」が5割台前半

質問を前回調査の「あなたは、今後、県は、これらの人権課題の解決に向けて、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。(✓はいくつでも)」から変更している。

人権問題の解決に向けて力を入れていけばよいと思うことについて、「学校内外の人権教育を充実する」が53.9%と最も高く、次いで「人権意識を高め、人権への理解を深めても

らうための啓発広報活動を推進する」、「人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する」（ともに 39.7%）となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

内閣府調査と比較すると、「人権意識を高め、人権への理解を深めてもらうための啓発広報活動を推進する」は 7.2 ポイント、「人権問題に対応する専門の相談機関・施設を充実する」は 9.3 ポイント低くなっている。